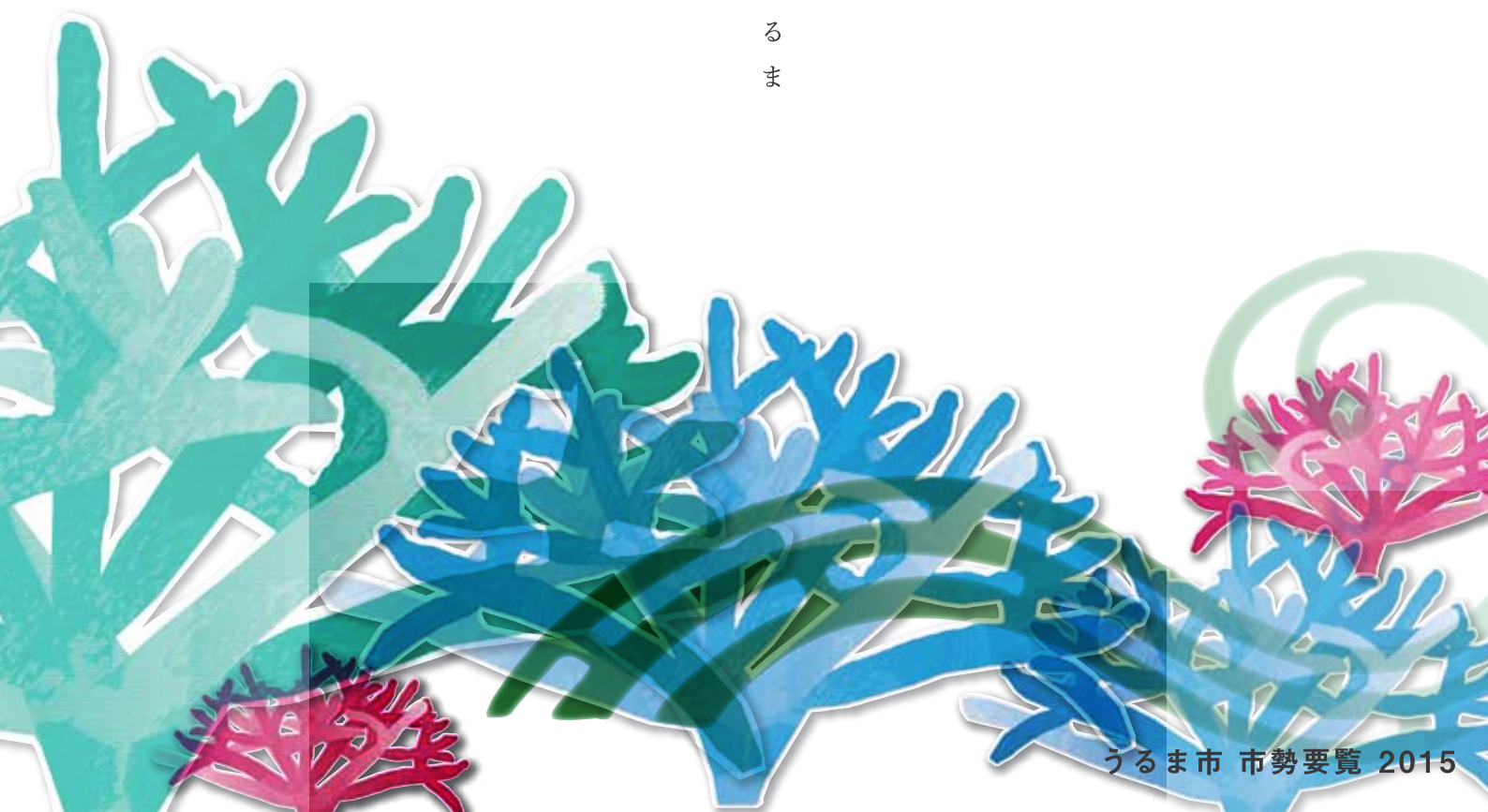




うるま



「珊瑚の島」
うるま



海を越えて、時を越えて。

うるま市は、その昔、水平線の彼方のニライカナイの世界から、
アマミチューとシルミチューの2神がたどり着いたという琉球神話由来の地。
この街に根付く歴史・文化・自然、人々の営みは
遙かなる海と遠い過去からの贈り物なのです。





沖縄県うるま市市勢要覧2015

CONTENTS

うるまの 誉れ

市長あいさつ	2
世界遺産「勝連城跡」	4
うるま市のシンボル“カッチングスク”	6
現代版組踊「肝高の阿麻和利」	8
真剣勝負に拍手喝采 — 闘牛 —	10
熱気あふれる闘牛場に勢子の声が響く	12
伝統エイサーの郷 — エイサー —	14
うるま市のバラエティー豊かなエイサー	16
獅子山のふもとにのこる伝統の舞い — 獅子舞 —	18
伝統文化	20
Uruma Column アマミチューとシルミチュー	22

うるまの 宝物

うるま市の祭り	24
うるま市の史跡・遺跡・文化財	26
うるま偉人伝	28
伊計村遊草の風景 蔡大鼎の足跡をたどる	30
名産品・特産品・推奨品	32
その先のうるまへ	36
Uruma Column 豚、海を渡る	38

うるま リポート

沖縄の歴史文化を後世に 甦るマーラン船	40
うるま市で見る・聞く・遊ぶ	42
うるま市の歴史	46
うるまマップ	48
盛岡市と友好都市提携	52
Uruma Column 「うるま」雑考	54

うるまの みらい

学校教育	56
社会教育	58
保健・医療・福祉	60
地域文化	62
都市環境	64
生活環境	66
農業・水産業	68
商業・工業	70
行政・議会	72
うるまの意味・市章の意味・市民憲章	74
うるま市花・市木等	75
うるま市歌・うるま市音頭	76
自治会プロフィール	78
資料編	79

市長あいさつ

Message on Publication of the 2015 Uruma City Guide



うるま市は、平成17年4月に、4市町が合併し、平成27年4月1日に市制施行10周年を迎えます。

「さんごの島」という意味の沖縄の言葉「うるま」から名付けられたうるま市は、沖縄本島の中部東海岸に位置し、県都那覇市から約25kmの距離にあります。

金武湾と中城湾に面し、東南部に広がる勝連半島の北方海上及び東方海上には、有人、無人の8つの島々や、海中道路、海洋レジャーに適した多くの海浜を有するなど、美しい風景と豊かな自然環境に恵まれたまちです。

また、世界遺産群の一つである勝連城跡をはじめ、貴重な歴史遺産や文化財が数多く保存され、各地域のエイサーや獅子舞などの伝統文化が若い世代にもしっかりと受け継がれています。

まちづくりには、市民の参画と協力が大切です。風光明媚な自然環境や、個性豊かな伝統芸能・文化、豊かな農畜産物などの地域資源を生かしながら、健康で安心して暮らせる、安らぎとうるおいに満ちた市民主役のまちづくりを推進し、市民と協働して「魅力あるうるま市づくり」に取り組んでいきます。

本要覧が、市内外の多くの方々に、本市への理解を深めていただき、新たな「うるま市の魅力」を発見していただければ幸いです。

ぜひ、うるま市で「遊び」、「住み」、「働き」、このまちの魅力を感じ取ってください。

うるま市長 島袋 俊夫

On April 1, 2015, we celebrated the 10th anniversary of Uruma City, which was established through a merger of four municipalities in April 2005.

Our city takes its name from the Okinawan word “uruma” meaning “coral island,” and is located along the east coast of the central region of the Okinawa main island. Uruma City is roughly 25km from the prefectural capital Naha City.

Along the Katsuren Peninsula which stretches out to the southeast and overlooks both the Kin and Nakagusuku bays, our city is blessed with beautiful scenery and abundant nature, among which are eight inhabited and uninhabited islands (to the north and east), the Kaichu-doro causeway and many excellent beaches suited to marine leisure.

Together with World Heritage Katsuren-Jo Site, many precious historical legacies and cultural properties are preserved here. Eisa, lion dances and other customs are handed down to the younger generation in each local community where they carry on these traditions.

The residents’ participation and cooperation are important for developing the city. As we make the most out of our scenic natural environment, highly individualistic traditional performing arts and culture, abundant agriculture and livestock as well as other regional resources, we promote municipal development to build a city where people may have healthy and secure lives and where our residents play a leading role in making our city rich in serenity and warmth. In cooperation with city residents, we are working to create an attractive Uruma City.

It is my hope that this City Guide will allow people both inside and outside of Uruma City to obtain a better understanding of our city, and discover the new charm of Uruma City. I hope you will be able to feel the charm of playing, living and working in Uruma City.

Uruma City Mayor Toshio Shimabuku



エイサー



世界遺産 勝連城跡

闘牛

伝統文化



獅子舞



うるまの 誉れ



うるまの
誉れ

琉球の歴史をズ

世界遺産 琉球王国のグスク及び関連遺産群 かつれんじょうあと 「勝連城跡」

今からおよそ600年余り前、
中継貿易の拠点として栄えていた勝連城^{ぐすく}に、歴史の大きな波が押し寄せました。
琉球王国のさらなる安定を図るため、首里王府は勝連城を攻め、
城主・阿麻和利を滅ぼしたのです。
急峻な丘の上に今もそびえたつ城壁には、時の権力にも屈しなかった
阿麻和利の誇り高き魂が刻まれています。

里む天空の城壁

World Cultural Heritage Site Katsuren-Jo Site

Approximately 600 years ago a great historical wave washed over Katsuren Castle, a prosperous erst-while site for transit trade. The Shuri royal government launched an attack on the castle, overthrowing the castle lord Amawari in order to further stabilize the Ryukyu Kingdom. The proud spirit of Amawari on that day, who did not yield to the powers that be, is etched into castle walls, which even today rise up magnificently on the steep hill.



うるま市のシンボル “カッチングスク”

うるま市の東海岸から太平洋に突き出す「勝連半島」の丘の上に佇むのが「勝連城跡」です。
2000年に『琉球王国のグスク及び関連遺産群』として首里城などとともに世界遺産に登録され、年間17万人（平成25年度統計／市商工観光課）に及ぶ観光客が訪れる人気スポットとして賑わっています。地域の人からは「カッチングスク」という名で親しまれ、そびえたつその姿は荘厳な雰囲気を醸し出しています。

頂上から見渡す360度のパノラマ風景は絶景です。南は知念半島から北はやんばるまで一望することが出来ます。「エメラルドブルー」「コバルトブルー」「スカイブルー」など目の前に広がる沖縄の美しい空や海を楽しむことが出来ます。

グスク時代に長い時間をかけて、一つひとつ石を積み上げて完成した勝連城。中国との交易が盛んだった15世紀頃、9代目の按司（城主のこと）・茂知附と、10代目按司・阿麻和利の時代が勝連城の最盛期とされています。貿易に力を注ぎアジアの中継地点として経済力、軍勢力を高めていきました。中国元王朝時代の陶磁器などの出土品からも当時の様子が伺えます。1458年、琉球王国統一を目指していた阿麻和利が、緻密な計画のもと首里王府軍より滅ぼされ、勝連城の幕は閉じます。

現在では中高生による現代版組踊「肝高の阿麻和利」、うるま市出身の唄者や地域のエイサーが勝連城跡に集結し泡盛片手に沖縄民謡を楽しむ「ぐしく島唄あしび」など、勝連城跡を舞台にした贅沢なイベントが開催されています。

ハエバルウジョー
南風原御門

くるわ
東の曲輪

うるまの 誉れ



一の曲輪(北東側)の城壁から北西(うるま市前原、塩屋方面)を望む



くるわ
一の曲輪

くるわ
二の曲輪

くるわ
三の曲輪

くるわ
四の曲輪

ニシハラウジョー
西原御門

The Symbol of Uruma City

Sitting atop a hill on the Katsuren Peninsula, which extends into the Pacific Ocean from the east coast of Uruma City, is the vestige of Katsuren-Jo Site. In 2000, it was registered a World Heritage Site with Shuri Castle under the designation "Gusuku Sites and Related Properties of the Kingdom of Ryukyu." Towering above the surrounding area, Katsuren-Jo Site forges a grand and glorious presence.

The 15th century was Katsuren Castle's golden age when trade with China was flourishing. Enterprises focused on commerce, boosting the castle's economy and military might as it served as a transit hub for trade with Asia. But, in 1458, Lord Amawari, who had aspirations of unifying the Ryukyu Kingdom, was decimated by the Shuri royal government's army, which brought the affluence of Katsuren Castle to an end.

\ Interview /



がねこ のりこ
我如古 則子さん

(うるま市史跡ガイドの会 会長)

地域の歴史資源を掘り起す

うるま市史跡ガイドの会は、平成22年、世界遺産の勝連城跡や市内の史跡など、地域のすばらしさを知ってもらうことを目的に結成されたボランティア団体です。毎週水曜日に午後2時から午後5時まで歴史的な背景を交えながら勝連城跡を案内しています。26年度は集落の発掘ということで、平良川、川田、屋慶名地域などの古いカーや史跡、文化財などを調査しました。

勝連城跡は歴史価値だけでなく、素晴らしい眺望が楽しめます。今年3月から勝連城跡内を案内する4か国語対応のポータルサイトが始まったので、スマートフォンを利用すれば、外国の方でも勝連城の歴史を詳しく知ることができます。





世界遺産勝連城跡を語るときに不可欠なのが勝連城最後の按司(城主)・阿麻和利です。北谷間切(現嘉手納町)の出身で、幼い頃から機転の効く異端児として知られました。当時、悪政に苦しんでいた民衆と相談し、献上する酒器に武器を隠して奇襲をかけ、当時の按司・茂知附を倒しました。

勝連城は代々、与論島や沖永良部島、大島諸島などを通して本土交易ルートを確認していました。積極的に朝鮮や中国との交易を広げることで、巨大な富を築き上げます。按司になった阿麻和利は、さらに活発に交易を進め勝連地域にかつてない繁栄をもたらします。人望も厚く、中部の勢力が広がるにつれて首里王府は「王権を脅かすほどの脅威」と警戒します。高まる勢力の対策として、琉球国王の娘「百十踏揚」を嫁がせました。その後、阿麻和利は東の勢力、護佐丸を倒し、首里王府討伐を視野に動きましたが、妻から首里王府

へその情報が渡り逆に襲撃され落城しました。

首里王府への反逆者として語り継がれていますが、首里王府が編纂した歌集「おもろさうし」のなかで、阿麻和利のことを肝高(気高い)と表現されることが残っています。

2000年から地元の中学生、高校生による現代組踊「肝高の阿麻和利」が始まりました。阿麻和利にまつわる歴史を歌と踊りで表現する現代版の組踊です。県内をはじめ、東京公演、ハワイ公演など200回以上の公演をしています。演技や舞台の完成度が高さはもちろん「地域文化の再発見」や「子供たちの感動体験の場作り」など、活動そのものが地域の振興として貢献しています。当時の時代に思いを馳せながら現代の子供たちが魅せる肝高の阿麻和利は感動を呼ぶストーリーとして注目されています。

現代版組踊 「肝高の阿」

げんだいばんくみおどり
きむたかのあまわり

Contemporary Kumiodori Dance "Kimutaka-no-Amawari"

The Katsuren-Jo Site cannot be mentioned without acknowledging Amawari, the last aji or lord of Katsuren Castle. Amawari actively promoted trade and created a period of prosperity never before seen in the Katsuren region. Nevertheless, the Shuri royal government saw him as a menace threatening its power. In the end, Amawari was outmaneuvered and destroyed.

In recent years, the historical narrative has been reas-

sessed, and Amawari has come to be viewed as a local hero. Since 2000, local junior and senior high school students have performed the contemporary kumiodori dance "Kimutaka-no-Amawari." The level of excellence, which the performance and theatrics have reached, has prompted a rediscovery of local culture and provided a dramatic experience for children. The performance has also helped promote the region.

うるまの
誉れ



麻和利』



闘牛

うるまの
誉れ Bull Fight

photo by YUKIE KUDAKA

真剣勝負に拍手喝采

闘牛王国と呼ばれるうるま市。沖縄一を決める大会には、県内の闘牛ファンが集まり、熱い声援をおくります。

沖縄県で「闘牛が最も盛んなまち」として知られているのが、うるま市です。「闘牛」と聞くと「スペイン」を思い浮かべるかたも少なくありませんが、日本における「闘牛」はスペインのように人と牛が闘うのではなく、闘うという本能を残した牛同士を闘わせる競技です。円形の闘牛場のなかで繰り広げられる、重量1トン以上もある牛と牛のぶつかり合い。まるで格闘技を観るような気分が味わえる、迫力の勝負です。沖縄では闘牛のことを「ウシオーラセー」と言い、大衆娯楽として親しまれています。

沖縄県で闘牛大会は一年間に約20回以上開催されています。そのうちの2/3以上がうるま市で行われて（県内一の多さ）います。特に年に3回、うるま市で行われる「全島闘牛大会」は県内のタイトルマッチが組まれる注目の大会。会場には5000人以上の観客が集い、立ち見客であふれかえります。うるま市にはドーム型の闘牛場「うるま

市石川多目的ドーム」があり、天候に左右されずに闘牛を開催できることが開催地として選ばれている理由となっています。また、安慶名城跡に隣接した「安慶名闘牛場」や公園内に併設された「伊波闘牛場」など、市内に闘牛場が点在しています。

沖縄県における闘牛の歴史については明確な起源は定かではありませんが、明治後期の新聞に闘牛が取り上げられた記事が確認されています。その後、第二次世界大戦によって闘牛文化は中断されてしまいますが、1947年に闘牛大会が再開。テレビでも放送されるようになり、ファン層を増やしていきました。強い牛は「スター牛」として人気が出ることもあり、1960年代に破竹の41連勝を記録し、5年間無敗を誇った「ゆかり号」は今でも語り継がれているスター牛です。



Bullfighting

Thunderous Applause for the Earnest Match

Uruma City is known as the bullfighting kingdom. Fans from throughout Okinawa come to cheer enthusiastically and watch the match to determine the strongest bull in all of Okinawa.

Bullfights in Okinawa are not like those in Spain where the

contest is between man and bull. Here, two trained bulls lock horns. Contests take place in a circular arena where bulls weighing over a ton each clash in an impressive battle.

Each year, about 20 bullfights are held in Okinawa, and over two-thirds of these take place in Uruma City.

\ Interview /



くだか ゆきえ
久高 幸枝さん
(闘牛写真家)

闘牛女子が撮る闘牛写真

家族で牛を育てる闘牛一家に生まれたので、小さいころから牛の世話をやっていました。写真が好きな父の影響だと思うのですが、自分の牛のデビュー戦を自分で撮りたいと言ったら、父がカメラを買ってくれたんです。撮った写真は父が現像に出してプリントしてくれました。仕上がった写真を見ると、父が撮ったものと違う。何が良くなかったのか父に聞いて、撮り方を覚え、そのうち他の人からも撮影を頼まれるようになりました。

最近は闘牛を観戦する女性も増えています。本気で闘っている姿がかっこいいと、みなさんおっしゃいますね。写真を通して、恰好よさだけでなく、牛の優しさ、人と牛との触れ合いといった、闘牛場では見られない部分も紹介していきたいと思っています。



熱気あふれる闘牛場に勢子の声が響く



試合が行われる闘牛場は、周りを鉄枠で囲まれた直径18メートル円形の対戦場。鉄枠の外はぐりと360度が観客席。段差があるので、どこからでも見やすい設計となっています。

闘牛のルールは牛同士の一対一。そこに、牛を勢いづかせ操る役割の勢子と呼ばれる闘牛士が牛の横につきます。真正面に牛が対峙した形で試合開始。正面から互いに頭をぶつけあっていきます。

正面から頭で相手を押していく「押し」、相手の牛に角を打ち込む「ワリ」、角を引っかけて相手の首をまわす「カケ」、相手の横にまわり腹を突

く「腹取り」など、数々の技を駆使しながら勝負していきます。闘牛の特徴の一つ、角にも様々な形があり、試合では重要な武器となります。試合時間は早くて数十秒、長ければ30分を超える長期戦になることも。試合が進むにつれ、舌をダラリと口から垂らすなどの体調の変化が見られ、試合が動くタイミングといわれています。体重や体格を考慮し、軽量級・中量級・無差別級の三つの階級に分かれています。無差別級には1トンを超える牛も登場します。大会では10～13の試合が組まれ、試合が進むほど強い牛が登場します。全島闘牛大会では最後の2、3試合がタイトルマッチとなります。

牛は闘牛場に入ってきてから臨戦態勢に入り、気合いも充分。それ以上に気合いが入っているのが勢子たち。試合中、彼らの気迫のこもった叫び声が闘牛に力を与え、試合が動いていきます。正に「人牛一体」となった闘い。勝利した牛に乗りガッツポーズを取る勢子たちの勝者の笑顔も、見どころのひとつです。

Bullfight Arena Overflowing with Excitement

According to bullfighting rules, matches are one-on-one contests between two bulls. Next to each bull is a coach called a seko, whose job is to encourage the bull. A contest begins with the bulls confronting each other, whereafter they butt their heads together.

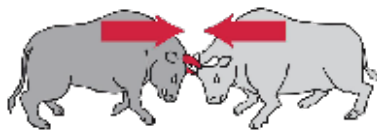
During the matches, the sekos spirited shouts give a boost to the bullfight as the contest storms ahead. This battle is truly a "partnership between man and bull." No one should miss seeing the smiles of winning seko as he sits atop his bull, holding up his fist in triumph.





闘牛の ワザ

押し



正面から渾身の力を込めて直線的に相手を押すこと。押しだけで勝負が決まることは希であり、体勢を崩した後続く腹取りでの決着が多い。

ワリ、ツキ



相手の肩間めがけて角を打ち込むこと。体重が乗った強烈な技が決まった場合は、かなりの威力となり、間をおかずに相手を敗走させることができる。

カケ



角を掛けて相手の首をまげること。もっともよくでる技であり、相手の首が90度近くも回転し天井を向いたままになることもある。

腹取り



相手の隙を狙い横腹を一気に襲う技。この技を得意とするのは、敏捷で体全体にバネがあり瞬発力豊かなタイプで花形牛となることが多い。

持たせ込み



相手に体重をかける技。相手の押し込みや掛けを避けるため防御目的にやることが多い。

Interview /



いは たいし
伊波 大志 さん
(闘牛実況アナウンサー)

闘牛をもっと身近に

闘牛のラジオ番組をきっかけに闘牛組合連合会の依頼で試合の実況をやることになりました。実況のリハーサルは出来ませんから、前もって戦歴、特徴、得意技など牛についての基本情報を準備し、試合の時には牛の紹介や技についての解説をまじえて実況しています。

「ワイドー」は闘牛にかかわるヒーローをつくりたいと思って漫画家志望の後輩に描いてもらったデザインをもとに衣装を作りました。子どもたちがよく声を掛けてくれるので、自腹をきった甲斐はあったなと思っています。

うるま市の商工会では、闘牛の試合以外にも今後、闘牛に関する様々な企画を検討しています。ご期待下さい。



エイサー

Spirit of Ryukyu

うるまの
誉れ

伝統エイサーの郷、 ひと味違いういにしえの舞

地謡が奏でる謡三線、一糸乱れぬ踊りと響きわたる
パーランクーのリズム。煌々と照らす満月の下、夏の夜の
青年たちの饗宴は、夜更けと共に盛り上がります。

沖縄の踊りで有名な「エイサー」は、古来より旧盆の最終日(旧暦7月15日)に、戻ってきた祖先の霊を送り出す念仏踊りです。先祖を大切に思う沖縄の人たちにとって大切な行事として受け継がれています。この日の為に各地域の青年会(エイサーを踊る地域団体)は、何ヶ月も前から毎晩、遅くまで練習を重ねています。

エイサーを構成するのは、先頭で大きな旗を持つ「旗頭(ハタガシラ)」、太鼓を持って踊る「太鼓打ち(テークチャー)」、太鼓を持たずに踊る「手踊り(ジーヌー)」、三線(さんしん)を弾きながら唄う「地方(ジカタ)」、顔を真っ白に塗った道化役「チョンダラー」などがいます。

うるま市には「伝統エイサーの郷」と言われ、格式のあるエイサーが残っています。その特徴の一つとして、「パーランクー」という小さな片面の手持ち太鼓を主に使

います。軽やかな「パン、パン」という音を響かせながら整然と並びながら踊ります。

衣装も地域ごとに特徴があり、白とグレーのシンプルな衣装から、黒地に金の刺繍が施された豪華な衣装、花笠などバラエティーに富んでいます。演目や踊り方は各地域ごとに異なり、ダイナミックに太鼓を持ちながら空へ跳び上がったり、大きな花笠をかぶって見事な舞を見せたり、荘厳な出で立ちで一糸乱れぬ舞をみせるエイサーなど、青年会ごとに独特な踊りをします。

毎年旧盆がすぎた頃に開催される「うるま市エイサーまつり」は市内のエイサーが集結します。一度にたくさんのエイサーが見られるので、まつりを目当てに県外から訪れる人も。琉球古来から続くエイサーは、うるま市の夏の風物詩なのです。



Eisa Haven of Traditional Eisa with a Different Twist on an Ancient Dance

The rhythm of paranku drums resounds to perfectly coordinated dance and choruses played on shamisen. Under a radiantly shining full moon, young people gather for banquets on summer evenings, lively events continuing late into the night.

Since ancient times, renowned Okinawan eisa has been handed down as a religious dance performed on the last day of the Bon Festival (July 15th of the lunar calendar) to see off the spirits of our ancestors, which have returned for the three-day festival. For Okinawan people who hold their ancestors dear, this is an important event which has been passed down to us over the ages.

The Uruma City Eisa Festival is held just after the lunar calendar Bon Festival every year and brings together eisa groups from around the city. It is an excellent chance to see many different eisa performances at one location, so spectators will even make the journey from outside the prefecture. Eisa, which has been performed since ancient times in Ryukyu, is a special part of summers in Uruma City.

\ Interview /

エイサーを通じて地域とコミュニケーション



ひが こうじ
比嘉 晃志 さん
(うるま市青年連合会 会長)

家族の影響でエイサーは高校1年からやっています。毎年4、5月頃から練習が始まるのですが、その当時は部活が終わった後、夜8時頃から10時頃までエイサーの練習に出ていました。

現在、うるま市内にある青年会は約30団体ほどで、青年会に入る人は減る傾向にあります。学生はアルバイトや勉強に忙しいのでなかなか参加は少ないですね。

うるま市エイサーまつりは毎年旧盆の次の週に開催されます。地域によって古い伝統的なエイサーから、現代的なスタイルまで、さまざまなエイサーが一堂に見られるのが、このまつりの醍醐味です。エイサーをすることによって地域の人たちとのコミュニケーションが深まり、とてもいい社会勉強になると思います。



うるま市の バラエティー豊かなエイサー

2005年に4つの市町村が合併したうるま市には、「石川・具志川・勝連・与那城」の各地域に特色のあるエイサーが存在します。石川地域には昭和初期から続く長い歴史のあるエイサーから、比較的結成されて年数の浅い青年会も。昭和初期から途絶えることなく続いている「伊波青年会」は、空手着を思わせる衣装が独特です。女性は「四つ竹」と呼ばれる琉球舞踊によく使われる楽器で音を鳴らし、ゆっくりと舞を魅せるのが特徴です。旧盆明けには獅子舞で集落を練り歩く儀式「旗すがし」も行われます。石川の歴史とともに受け継がれている「石川エイ

サー保存会」は男性のみで構成され、空手着姿にピンク色の布を巻いた姿。締め太鼓に「ソーグ」と言われる鐘を鳴らすのがとても珍しいです。

具志川地域にある「天願エイサー」は、躍動感溢れる舞を見せます。「赤野青年会」は美しいフォーメーション、バラエティーに富んだパーランクーの打ち方が特徴的です。鮮やかな緑色の衣装も印象的で、10曲休まず踊り通す、パワフルな青年会です。

与勝地域(与那城・勝連)のエイサーは、琉球古来から続く、シンプルなグレーの衣装を纏う『僧侶スタイル』のエイサーが残っています。特に「平敷

屋エイサー」が有名で「与那城青年会」「平安名青年会」も僧侶スタイルです。パーランクーのバチの持ち方や、たたき方に違いがあり一糸乱れぬ荘厳な舞を見せます。花笠を使って舞うのが「屋慶名エイサー」。うるま市の代表的なエイサーとして知られています。全島沖縄エイサー祭りの優勝経験のある「比嘉エイサー」の舞は、屋慶名エイサー、赤野青年会などの前身といわれ、力強い踊りと空手の構えが特徴です。市内でも多岐にわたるエイサーの文化。それぞれ独自の舞やスタイルを守りながら、毎年、先祖を送っています。



Uruma City's Medley of Eisa

Uruma City was formed through the consolidation of four municipalities in 2005. Each of these areas, Ishikawa, Gushikawa, Katsuren and Yonashiro, has its own unique eisa style.

Ishikawa preserves a style of eisa with a long history dating back to the early Showa period.

Tengan eisa in the Gushikawa region is always a lively and energetic performance.

Yokatsu region (Yonashiro and Katsuren) eisa maintains a priestly style in which performers dress in simple gray costumes in keeping with the time-honored Ryukyuan tradition.

獅子舞

Lion Dance

うるまの
誉れ

獅子山のふもとにのこる伝統の舞い

二人一組で操る沖縄の獅子舞。8つの字に伝統的な獅子舞が残っているうるま市では、年に一度、沖縄中の獅子舞が一堂に会して「全島獅子舞フェスティバル」が催されます。

獅子舞は沖縄の各地域にとけこんだ伝統文化です。その由来は中国から渡来したといわれています。獅子舞をおこなう目的は、災害を百獣の王である獅子によって除けてもらうためのものとされています。悪霊を祓い、弥勒世(ミルキュー)を招き、五穀豊穡・子孫繁栄や地域の繁栄をもたらすといわれ、沖縄各地で受け継がれています。うるま市には昔、獅子が住んでいたという「獅子山」があり、市内の8つの字で伝統的な獅子舞が保存されている獅子に縁が深い土地といわれています。

県外の獅子舞は布の胴を一人で被る一人獅子に対して、沖縄の獅子舞は縫いぐるみのなかに二人で入るのが特徴。獅子の頭は梯梧(でいご)の木をくり抜いて作られ、黒漆などを塗っています。胴体は芭蕉の繊維を加工し、赤や白に染め上げてふさふさとした胴に仕上げられています。

眠っている獅子と、それを誘い出す棒術を使う男「わくやあ」で進行していきます。わくやあの軽快な舞いと三線や銅鑼、ホラ貝の音色に乗せられ、次第に獅子も舞っていきます。おおらかでコミカルな動きも交えるので、見ている人を飽きさせない舞いです。

沖縄各地の獅子舞が一堂に会するイベント「全島獅子舞フェスティバル」は、民俗芸能である獅子舞の保存・継承・発展を目的としたイベントです。毎年旧暦9月15日に近い日曜日、うるま市で開催されています。沖縄の各地域から、さまざまな獅子舞が演舞を紹介し、それぞれの特色ある伝統芸能をダイナミックに披露し、観客を魅了していきます。



Lion Dance Traditional Dance at the Foot of Lion Rock Mountain

The lion dance, which, as legend has it, was brought to Okinawa from China, is performed to exorcise evil spirits and bring bountiful harvests, thriving posterity, and prosperous community. These dances have been handed down over the years in each local community. Lion Rock Mountain where the lion is said to have lived is located in Uruma City, and the lion dance tradition is preserved in each of Uruma City's eight districts.

The All Okinawa Lion Dance Festival assembles lion dance performers from all over Okinawa in one location. This event helps to preserve, pass on and develop the lion dance genre of folk entertainment. The festival is held in Uruma City on a Sunday around September 15 according to the lunar calendar each year. A variety of lion dances are on display from communities throughout Okinawa. Each of these distinctive traditional performances is dynamically presented, mesmerizing audiences.



\ Interview /

伝統を守り、地域の活性化につなげたい



こうち よしあき
幸地 良明 さん

(うるま市天願獅子舞保存会 会長)

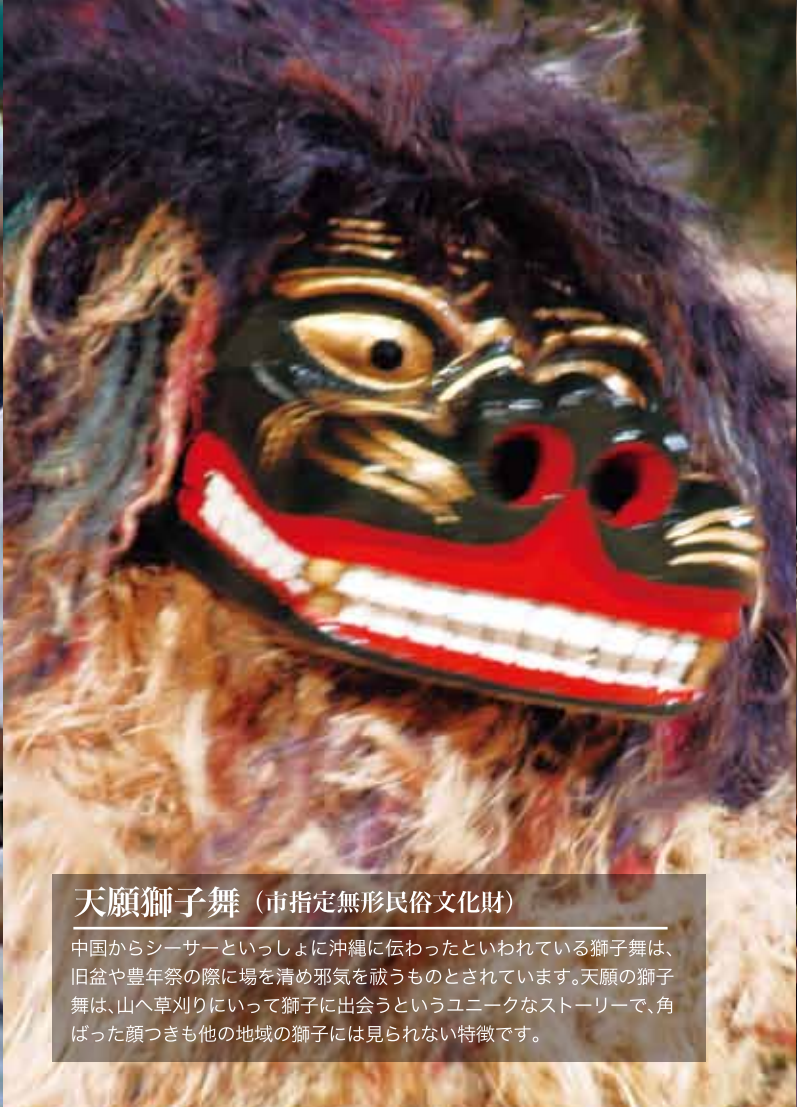
天願の獅子は「神獅子」で、古くから地域の守り神として伝えられてきました。今も公民館で大切に保管されており、獅子舞を踊るときは区長さんを中心に神事を行ってから使用しています。天願獅子舞の特徴は、喜怒哀楽を豊かに表現するところ。飛んだり、跳ねたり、回転したり、退場する時には振り向いたりしてとてもユーモアがあります。10以上の技があり、獅子を操る2人のタイミングがとても大切です。

保存会は後継者を育てるために結成されました。会員は現在25人ほど。毎月模合を兼ねて集まっています。保存会では獅子の毛の材料である芭蕉を栽培し、年に一回、収穫して繊維をとることもやっています。これからも地域に根付いた伝統を大切にしながら、地域の活性化につなげていきたいです



平敷屋エイサー (市指定無形民俗文化財)

300年以上の伝統があるといわれ、1996年、環境庁が選定した「地域で将来に残したい日本の音風景100選」に選ばれました。三線の地謡にパーランクー、男女の手踊りが加わり、ゆったりした振り付けには力強さが感じられます。



天願獅子舞 (市指定無形民俗文化財)

中国からシーサーといっしょに沖縄に伝わったといわれている獅子舞は、旧盆や豊年祭の際に場を清め邪気を祓うものとされています。天願の獅子舞は、山へ草刈りに行って獅子に出会うというユニークなストーリーで、角ばった顔つきも他の地域の獅子には見られない特徴です。

伝

統文化

うるま市の各地域に残るエイサー、獅子舞、闘牛などの伝統芸能や文化は、長い歴史をもっており、古くは琉球王朝時代まで遡ることができます。これらの伝統芸能や文化は、琉球王国から沖縄県、沖縄戦を経てアメリカ軍による統治、そして本土復帰と、時代の大きな波に揺られながらも、今日まで脈々と伝えられてきました。いつの時代でも地域の人々が心の拠り所として大切を守り、親から子の代へ、子から孫の代へと、互いにふれあいながら、まさに手渡しで伝えられてきたのです。

Traditional Culture

Eisa, lion dances, bullfighting and other traditional performance arts and culture surviving in the communities of Uruma City have a long history, extending back even to the time of the Ryukyu Dynasty of old. These performance arts and culture have been passed down unbroken to today, drifting along the waves of time from days of the Kingdom of the Ryukyus to the formation of Okinawa Prefecture, the US military administration after the Battle of Okinawa, and on past Okinawa's return to Japan. In every age and time, people carefully protect these traditions with all their heart and soul, and take care to hand them down from parent to child and then child to grandchild as these performance arts and culture touch a chord with all generations.



田場ティンベ (市指定無形民俗文化財)

「ティンベ」は沖縄の古武術の一つ。ティンベとは直系70cmほどの円形の盾のことをいい、片手にティンベ、もう一方の手に長刀を持ち、鉾を持った相手と攻防の技を演じます。中国から伝わったといわれていますが、田場地区では古くから受け継がれている伝統文化の一つです。

マーラン船の建造技術 (市指定文化財)

マーラン船とは18世紀初め頃、中国の福建地方から伝来したといわれる、沖縄で最も普及した船で、山原船とも呼ばれました。うるま市の船大工越來治喜さんが持つマーラン船の建造技術は市の文化財に指定されています。



三線(県指定有形文化財、市指定有形文化財)

うるま市には、古くは琉球王朝時代に作られたとされる三線のほか、名器と呼ばれる三線がいくつか残されています。三線翁長開鐘は尚澆王(在位1804年～1834年)が愛用した名器で、真壁型の正型、芯の部分に「翁長開鐘」と朱塗りで銘記があります。ちなみに開鐘とは、夜明けに撞く寺院の鐘のことでよく響きわたることを意味します。三線真壁型は琉球古典音楽の大家・幸地亀千代(1896年～1969年)が愛用し、戦前に辻町の名器の一つとして伝えられた三線です。そのほかにも、三線平中知念方、三線鴨口与那方など、歴史のある三線が伝えられています。



うるま市民が誇りにしているもの。
それは心のよりどころとなり、魂を熱くする。



宮城ウシデーク
(市指定無形民俗文化財)

ウシデークは沖縄の農漁村で広く見られる祭祀舞踊です。豊年祈願などが無事済んだことを祝う行事で、女性だけで行われます。村のアシビナー(遊び庭)やアシャギナーと呼ばれる広場で、ニートウイ(音取り)と呼ぶ小鼓を持った年長の女性を先頭に、中年の主婦や少女が続ぎ、左回りに輪を描きながら踊ります。



津堅島の唐踊
(県指定選択文化財)

津堅島の伝統行事「八月遊び(旧暦8月9日～15日)」の中で行われる踊り。唐踊と呼ばれていますが、中国の踊りではなく、外来のものという意味づけだといわれています。パーランクーを打ちながら、首を左右に振って踊ります。



伊波メンサー織
(市指定無形民俗文化財)

地機(原型)といわれる原始的な機で織られる織物で、日本に現存する織機では、北海道のアツツシ織と八丈島のカッパタ織の3例しかないという貴重なものです。一般的な機織と違い、経糸を木に固定してもう一方を織り手の方に張り、緯糸の織り込みが進むと織り手が前に進みながら織っていきます。

うるま市にある浜比嘉島は琉球開闢神話にまつわる史跡が残る島としてよく知られています。

琉球開闢神話は、神代の昔、アマミチュー（アマミキヨ）とシルミチュー（シネリキヨ）の二神が天から降りてきて、浜比嘉島に住みつき、やがて子供ができて、そこから沖縄各地に人が増えていく、というのが大まかな内容です。浜比嘉島にはアマミチューとシルミチューが暮らしたとされるシルミチュー霊場やアマミチュー墓があり、どちらにもアマミチューとシルミチューが祀られています。

アマミチューとシルミチューについてはよく知られていますが、その子どもについてはあまり知られていません。名は「ウミチルー」といいます。伝承によるとウミチルーは島の南東側の兼久集落の沖にあるクバ島で生まれましたが、10歳の時に海に投げ捨てられました。これについて『勝連村史』には次のような話が記されています。

明治の初め頃、毎晩神の霊示に悩まされてノイローゼになった当時のノロが、他の神職祭事関係者を伴ってクバ島に登りました。この大岩の頂上までは男でも登れないほど険阻な崖になっていま

すが、ノロは岩に足を踏み入れるや大声で「ウミチルーヤクマドー（ウミチルーはここだぞ）」と呼びながら、やすやすと頂上に登り、一塊の人骨を拾い集めて用意した白布に包み、これを抱いてまた楽々と駆け下りてきました。そして霊示の通り抱いてきた骨をアマミチュー墓に葬ったところ、ノロのノイローゼはすっかり治ってしまったそうです。

また、『かつれんの民話』によると、明治の初め頃には、シルミチュー霊場でもある事件が起きました。シルミチュー霊場の洞窟内には瓦葺の祠があり、中に天帝子、天太子、天孫子と刻された三個の石と多数の小石が詰められ、さらに二個の鏡を入れた壺が安置されています。

毎年年頭拝みの際には、ノロが浜から小石を拾ってきて壺に入れる例になっており、小石の数はその入れ始め遺構の年数を表す貴重な資料でしたが、明治初期に小石が壺一杯になっていたの、当時の関係者が小石の歴史的意味を悟らず数えもせず捨ててしまった、というのです。

アマミチュー墓やシルミチュー霊場は、今も島のさまざまな祭祀が行われている聖地であり、また島外からも多くの人が訪れ、祈りと感謝の心を捧げています。

アマミチューとシルミチュー

琉球開闢神話は、神代の昔、アマミチュー（アマミキヨ）とシルミチュー（シネリキヨ）の二神が天から降りてきて、浜比嘉島に住みつき、やがて子供ができて、そこから沖縄各地に人が増えていく。



アマミチュー



シルミチュー

☆うるま市の
名産品
特産品
推奨品

☆うるま市の祭り

☆史跡

☆遺跡

☆文化財

うるまの 宝物

☆その先のうるまへ

☆うるま偉人伝

☆伊計村遊草の風景

Festivals & Events

うるま市では、一年を通じて様々な祭りやイベントが催されています。

最も大きな祭りといえば「うるま祭り」(10月)。地域の伝統芸能、闘牛、ライブなど、見所満載の祭りです。

そのほかにも、海中道路をコースに行われる「あやはし海中ロードレース大会」(4月)、「各地のハーリー大会」(6月)、「うるま市エイサーまつり」(旧7月)、「全島獅子舞フェスティバル」(9月)、「うるま市産業まつり」(12月)、「春の芸術祭」(1月)など、スポーツ、文化・芸術、産業と幅広い分野で、多彩な祭り・イベントが催されています。また、沖縄県闘牛連合会主催の闘牛沖縄一を決める「全島闘牛大会」(5月、11月)が開催されます。

In Uruma City, various festivals and events are held throughout the year. The largest festival is the Uruma City Festival in October, featuring performing arts, bullfighting, live concerts and a full schedule of noteworthy entertainment.

Many other colorful festivals and events spanning a wide area of interests including sports, culture, fine arts, and industry are also held, such as the Ayahashi Road Race through the Sea Tournament in April, in which a road race takes place along the "Road through the Sea," local Hari (Dragon Boat) competitions in June, the Uruma City Eisa Festival in the month of July according to the lunar calendar, the All Okinawa Lion Dance Festival in September, the Uruma City Industrial Fair in December, as well as the Spring Art Festival in January.

In addition, the All Okinawa Bullfighting Tournaments where the top fighting bull in Okinawa is determined are held in May and November under the sponsorship of the Okinawa Prefecture Bullfighting Federation.



Sea Art フェスティバル

春の芸術祭

青年エイサーまつり

うるま市産業まつり

産業まつり

全島獅子舞フェスティバル

闘牛

ハーリー大会

あやはし海中ロードレース

Festival



伊波貝塚

昭和47年5月15日指定

おおよまかしわ
大正9年、大山柏氏によって発見された貝塚。出土した山形の口縁部に4個の突起をもつ平底の深鉢形をした土器は、伊波式土器と称され、縄文後期(紀元前3500年)を代表する標準土器として知られています。



仲原遺跡

昭和61年8月16日指定

縄文時代晩期(2400年～2500年前)とみられる石囲の竪穴式住居跡。規模は2～3m、4～5mで約1～2坪の正方形でまとまった集落が、保存のよい状態で東西にかけて直線上にんでいます。土器、石斧、磨石、凹石、骨製品、貝製品などが出土、人骨も5体出土しています。

県指定文化財

Cultural assets



勝連間切南風原村文書

昭和52年3月15日指定

勝連南風原には明治20～30年代に作成された地割関係の文書(冊子68冊、地籍図29葉)が保存されています。なかでも明治29年(1896年)の地割関係の文書は従来の土地制度関係史料には見いだせない新史料が含まれており、地割が農村において実施された具体的な過程を知る貴重なもので、近世、近代の沖縄の農村経済制度を知る重要な史料です。



うるま市の 史跡・遺跡・文化財



安慶名城跡

昭和47年5月15日指定

自然の断崖と急傾斜を巧みに利用した山城。外側と内側に二重の石垣を巡らす、県内では珍しい輪郭式のグスクで、築城時期の詳細は不明。伝承では14世紀頃、安慶名大川按司の築城ともいわれています。

国指定史跡

Cultural assets

私たちの祖先が長い歴史の中で育て、伝えてきた文化遺産。

うるま市には、琉球の開闢神話にまつわる史跡から、数千年前の住居跡、グスク時代、琉球王朝時代、そして近代にいたるまでの史跡・遺跡が数多く残っています。うるま市ではこれらの史跡・遺跡を歴史・文化遺産として大切に守り、その価値を後世に伝えていきます。

Historic Sites, Ruins and Cultural Treasures

In Uruma City, numerous historic sites and ruins survive from the gusuku (castle) period, Ryukyu Dynasty, and more recent times, ranging from historic sites linked with Ryukyu creation myths to habitation sites of thousands of years ago.

Uruma City protects these historical sites and ruins with great care as vestiges of the City's cultural heritage and history, a value that will be passed on to succeeding generations.

市指定文化財

Cultural assets



ワイトゥイ

ワイトゥイは勝連平安名の南西部に築かれた断崖を掘削した農道です。岩を割って取ったという意味から「ワイトゥイ」と呼ばれていますが、正式には比殿農道ひどのんといひます。かつては急崖の山道を上り下りしていましたが、村人の苦難を解消するため、岩山をトングアー(金鉋)とカニガラ(石割棒)など人力だけで150mもくりぬき、1932年から3年の歳月を費やして完成しました。



ガーラ^{ぼし}砦

昭和3年(1928年)の大典記念(昭和天皇の即位記念)の年、ガーラー山を切り開いてガーラ川に架けられたアーチ型の石砦。長さ5m、幅2m、川底からの高さ5mに造られており、上に重圧がかかるほど石砦がしまってますます固くなっていくといわれています。



平敷屋タキノー

1727年脇地頭としてこの地に配せられた平敷屋朝敏は、水不足になやむ農民のために、ため池をほりました。その時ほり出した土を盛り上げ築いたのがこの丘だと伝えられています。1986年には、和文学者であった朝敏の歌碑記念碑も建立されました。



ヤンガー

宮城島の上原にある湧水。1849年頃に造られたと伝えられています。泉の内部はトンネル状に石が組まれ、湧き口まで続いており、沖縄の石造建築技術が優れているのを示しています。毎年正月に清水を取る習わしであるウビナリーがあり、各門中がヤンガーを拝み、健康祈願を行います。



嘉手苺^{にっしゅうしょうにん}観音堂 [かでかるかんのんどう]

真言宗の僧・日秀上人(1503年～1577年)が創建したといわれる観世音菩薩を祀る御堂。口碑によると、五代伊波按司は信心深く、金武に来ていた大和の僧に勧進して観音堂を立てましたが2回も火災にあったため、嘉手苺に移転させたとされています。



大田坂

今から約200年ほど前にあかぼんだ掟、玉城親雲上、上門小ビニーの三者の企画と設計で施工され、地元や近隣の住民から資材の協力を得て完成したと伝えられています。幅2～3m、全長300mにおよび、石灰岩を敷き詰めた石畳で、首里王府から各間切間の伝達に利用された道で、宿道(現在の国道にあたる)としても利用された歴史の道です。



沖縄諮詢会堂跡 [しじゅんかい]

沖縄戦後初の政治機構、沖縄諮詢会の会堂跡です。沖縄諮詢会は、昭和20年8月、米軍政府に招集された各地区収容所の住民代表が行った投票において、15人の委員が選出され発足しました。昭和21年4月の沖縄中央政府発足により、その機能が東恩納に移るまで使用されていました。

平敷屋製糖工場跡



平敷屋製糖工場跡は、昭和15年(1940年)に勝連平敷屋地域の11組の旧サーターヤー組が合併して新設された共同製糖工場です。

近代の沖縄では甘藷压榨に畜力を用いる伝統的な在来製糖場と、機械を用いる改良製糖場が共立していましたが、昭和3年(1928年)以降、共同製糖場の設立が増えました。そのような中で、蒸気を原動力とし、共同製糖場の経営方式をとる平敷屋製糖工場が設立されました。聞き取りによると、工場建物は南向きで、その前面に3基の煙突が立ち、煙突

の一つは蒸気機関のボイラーにつながり、燃料には石炭を使用したとあります。昭和19年(1944年)の十・十空襲以降、工場は操業できず、その後、米軍の攻撃で破壊されました。現在、工場跡には煙突1基、貯水槽1基が残存しています。煙突は煉瓦造りで、高さが約16.3m、煙突表面には銃痕が残り、貯水槽はコンクリート造りで、平面は9×10.5mの略長方形で、深さが約3mです。

平敷屋製糖工場跡は、近代の沖縄の糖業史と技術展開を知る上で価値のある遺跡であるとして、平成27年(2015年)1月26日、国登録文化財として登録されました。



シルミチュー

浜比嘉島の南南東の森の中にあり、琉球開闢伝説の神シルミチュー・アマミチューが住んでいた場所と伝えられています。アマミチューの墓と同様に、年頭拝みが行われます。洞窟の中にある鍾乳石は、子宝の授かる霊石として拝まれています。



うるま Uruma Biography 偉人伝

うるま市の歴史に 名を残した人たち

琉球王国時代から現代に至るまで、うるま市地域からは多くの偉人が輩出されました。

その中で、地域だけでなく沖縄の発展にも寄与した4人の偉人を紹介します。

Tales of Great Men

From the days of the Ryukyu Kingdom up through modern times, many eminent figures have emerged from the lands making up Uruma City. Here are four of the great people who contributed not only to the community, but also to the development of all of Okinawa.



おなは・ぜんこう (ぶーてん)
小那覇 全孝 (舞天)
1897 ~ 1969 琉球芸能の達人

笑いで戦後復興を支えた
沖縄のチャップリン

命のお祝いをしましょう

戦後、嘉手納より石川へ移住。本職は歯科医であったが、プロ顔負けの琉球芸能の達人。終戦直後の荒廃したなか、三線を片手に家々を訪ね歩き「生き残った者が、元気を取り戻さないといけない。さあ、命のお祝いをしよう(ぬちぬぐすーじさびら)」と「笑い」と「ユーモア」で人々に生きる希望を与え続けた。後に沖縄のチャップリンと称され、戦後沖縄の芸能と地域社会の復興に多大な影響を与えた。



Zenko (Bu-ten) Onaha, 1897 ~ 1969

Zenko Onaha moved from Kadena to Ishikawa after World War II. He was a dentist by profession and such a skilled performer of Ryukyuan arts that he could put even professionals to shame.

Amidst the devastation right immediately after the end of the war, he would travel around carrying his sanshin went from house to house. With his smile and humor, he gave people the hope to live and carry on, saying "We survivors have to pick ourselves up and live again. Celebrate life (nuchinu-gusuji-sabira)!" He later came to be known as the "Charlie Chaplin of Okinawa." Zenko Onaha had a tremendous influence on the post-war restoration of local communities and the performing arts in Okinawa.



志喜屋 孝信
しきや・こうしん
1884～1955
教育者・沖縄民政府初代知事

沖縄再建に尽力した、人道学博士

住民の利益と幸せを願って

沖縄県立第二中学校校長を経て、沖縄で初となる私立開南中学校を創設するなど、教育のために情熱を注いだ県教育界の第一人者。また、終戦後の昭和21年、沖縄民政府の初代知事に就任し、戦後沖縄の復興に努めた。昭和27年には琉球大学の初代学長に就任。多くの人材を世に送り出した。

Koshin Shikiya, Educator and First Governor of the Okinawa Civilian Administration, 1884 ~ 1955

After serving as principal of the Okinawa Prefectural Daini Junior High School, he led the Okinawa educational community through his enthusiastic commitment to education, founding Okinawa's first nongovernment institution, Kainan Junior High School, among other achievements. He also took office as the first Governor of the Okinawa Civilian Administration in 1946, and devoted himself to the postwar recovery of Okinawa. In 1952, he was installed as the first president of the University of the Ryukyu. His dedication cultivated many, many talented people and sent them out to serve society.

才能に恵まれながらも、波乱の人生を歩む

組踊「手水の縁」の作者。薩摩支配下における苦難の時代、士族という身分におごることなく、農民など弱い立場の人たちに温かい眼差しを向けることができた沖縄近世随一の和文学者。1727年、脇地頭として平敷屋に配され、水不足に悩む農民のために溜池を掘削し、掘り起こした土を盛り上げて築いたのが「平敷屋タキノー」である。

Chobin Heshikiya, Scholar of Japanese Literature, 1700 ~ 1734

Chobin Heshikiya authored the Kumi-odori dance "Temizu-no-En." He was the greatest scholar of Japanese literature in modern Okinawan history. During the period of hardship under the rule of the Satsuma Clan, he was modest about his status as a member of the samurai class and looked with warmth to farmers and others in need by providing them assistance. In 1727, he was stationed in Heshikiya as the steward of the land and dug reservoirs for farmers worried about water shortages. The "Heshikiya-takino" mound was built with the dirt removed to make these water basins.

沖縄芝居に影響を

及ぼした、和文学者

平敷屋 朝敏
へしきや・ちようびん
1700～1734
和文学者



※イラストはイメージです。



真鏡名 安明
ましきな・あんめい
1884～1935
医師・県会議員

護岸整備の必要性を訴え続けた、立役者

安定した人々の暮らしを目指して

医師として住民の健康管理を担う一方、地域の教育、行政、経済の発展に尽くそうと昭和4年に県会議員に立候補し当選。与那城地域の農耕地の保全を図るため、昭和8年から実施された「沖縄県振興15カ年計画」を当地域に誘致し、海岸線全域の護岸工事、耕地整理事業、土木農道、河川工事等に尽力した。

Anmei Majikina, Physician and Prefectural Assemblyman, 1884 ~ 1935

As a physician, Anmei Majikina had the responsibility of caring for the health of residents, yet he also ran for and was elected to the Prefectural Assembly in 1929 with the goal of improving the regional economy, municipal administration and education. To preserve the farmlands in the Yonashiro district, he was able to have the area included in the Okinawa Prefecture 15-Year Promotion Plan. He devoted his energy to the work of constructing embankments along the entire coastal area as well as promoting farmland consolidation projects, public works programs, farm roads, and river projects.

Scenes from "Ikei Mura Yuso"

Following the Footsteps of Sai Taitei

"Ikei Mura Yuso" is a collection of Chinese poems that Sai Taitei, a poet who composed traditional Chinese poems that lived during the last days of the Ryukyu Kingdom, composed in 1849, depicting the scenery on his way to Ikei Village (Ikei Island), which was then his father's domain. The collection was first identified in 2012.

The collection comprises 30 poems, of which 20 are works penned in Uruma City.

Here, we follow the route that Sai Taitei took as he walked to Ikei Village and his thoughts as he contemplated the scenery.

蔡大鼎の足跡をたどる

伊計村遊草は、琉球王国時代末期の漢詩人である蔡大鼎（伊計親雲上）が一八四九年（道光二十九年）に父の領地である伊計村（伊計島）に赴く途中の風景を詠んだ漢詩集で、二〇一二年（平成二十四）に初めて確認されました。収められている漢詩は全部で三十首。そのうち二十首はうるま市内で詠まれた作品です。蔡大鼎が見た風景を想い、歩いた道をたどりました。

渡平安座長江

欲渡桃原一葉舟、
沈浮人在鏡中遊。
仰看雁陣排空出、
却爲驚寒唳不休。

「訳」

平安座の長江を渡る
一艘の小舟に乗って、桃原（宮城島）へ渡ろうとした。小舟は波間に浮かんだり沈み込んだりするが、舟に乗る私はまるで鏡の中を行くようである。空を見上げると、隊列をなして飛ぶ雁は、天空を駆け上がっていく、そのため、かえって上空の寒さに驚き、鳴き声が止まらない。

登池味山望伊計

〔池味村名〕

瞥見孤村島嶼東、
人家萬井樹千叢。
天然一幅江山畫、
盡入遊人望眼中。

「訳」

池味の山に登り伊計島を眺める
島々の東側に孤立した村落が目に入っている。人気が集まっており、樹木が群がっている。自然が提供してくれた山水画の一幅といえるほどの素晴らしい景色で、すべてが旅人である私の眼中に入ってくる。

伊計犬川泉

〔此泉犬所求、故曰犬川泉〕

涓涓谷口湧甘泉、
清爽聲如漱玉傳。
山犬于今何處去、
當年勝跡尚依然。

「訳」

伊計の犬川泉（この泉は犬が探し出したので、犬川泉と言う）
谷の入り口に甘い泉が細々と流れ出ている。その流れは清く爽やかで、玉を鳴らす音が伝わってくるようである。犬が発見したと伝えるこの泉であるが、その山犬は今どこへ行ったのか。その名を冠した泉は、当時のままであるのに。

伊計村遊草の風景

訳・高津孝

南原水田

〔南原村名〕

萬頃江田一望中、
延袤阡陌目交通。
遙知今歲歌豐稔、
合穎嘉禾處處同。

〔訳〕

南原の水田（南原は村の名である）
ここからは、万頃にも広がる河口拓地の水田が一望のもとにあり、縦横に広がるあぜ道を行き交う人の往来が目に入る。遠くから、今年は豊作であると歌う歌声が聞えてくるが、いま琉球は豊作で、瑞祥である合穎（一つの茎に二つの穂）や嘉禾（穂の多く付いた稲）があちこち同じように見られるのである。

登勝連城懷古

崔嵬城郭九霄鄰、
比日登臨感慨頻。
舊址依然風景異、
寒鴉空自噪荒闌。

〔訳〕

勝連城に登り昔のことに思いを馳せる
勝連城は、ごつごつとして険しく、天空に隣り合うかのように高くそびえている。この日、私は勝連城に登ったが、過去の歴史を思い出すと、感慨があふれてくる。古い遺跡は過去のままであるが、周りの風景はすっかり変わってしまった。寒空に舞うカラスだけが、空しく荒れ果てた城門で騒がしく鳴いている。

過與那城濱

十里江濱一望平、
數羣水鳥自飛鳴。
遠村露出于章樹、
恩納高山海外橫。

〔恩納、群名。〕

〔訳〕

与那城の浜辺に立ち寄る
五キロも続く砂浜を一望すれば平らかで、数むれの水鳥がそこで飛び鳴いている。遠い村里が、クスノキの向こうに姿を現し、恩納の高い山が、海（金武湾）の向こうに横たわっている。（恩納は間切りの名である。）



豊富な水、豊かな大地、美しい海に育まれ、人々が愛情を込めて作った特産品。

うるま市の風土と、人々の知恵が作った名産品。

どれもうるま市自慢のものばかりです。



みほそまんじゅう

うるま市だけで栽培されている沖縄在来茶「山城茶」の茶葉を白あんに練りこんだまんじゅう。お茶特有の味と香りがあり、甘さを控えたヘルシーなお菓子です。第23回全国菓子博覧会で栄誉大賞を受賞しました。



黒糖屋さんのミックスナッツ

ピーナッツ・アーモンド・カシューナッツに沖縄の粗糖・黒糖と、沖縄の海水から生まれた「ぬちまーす」を軽くからめたお菓子。ほんのり塩味だからおやつやおつまみにもぴったりです。



りゅうか グアバ入水饅頭粒香

完熟のグアバの果実が入った風味豊かな水饅頭。半透明の水饅頭の中に、白あんとグアバの果肉が入っていて、弾力のある食感と、グアバの香りと歯ごたえが特徴。第22回全国菓子博覧会で栄誉大賞を受賞しています。



沖縄の海塩ぬちまーす

宮城島沖の太平洋の海水が原料。世界初の特許製法で、海水を霧状にして空中でミネラル分を結晶化させたパウダー状の塩です。苦味、甘味、旨みのバランスに優れ、沖縄サミット首里城晩餐会の料理にも使用されました。



うるま市の 名産品

ブランド豚肉 美ら海豚

沖縄産のモズクが入った特製飼料で飼育された「美ら海豚」は、一般の豚と比べてコレステロール値が低く、脂肪酸が少ないため豚特有の臭みがありません。タンパク質やミネラル分が豊富に含まれ、赤肉に甘味があり、脂肪にも味があります。



あまSUN(中晩生柑橘「天草」)

品種名の「天草」と、沖縄の太陽をイメージして命名されました。密度の高い果実と甘くて濃厚な果汁が特徴。12月頃の収穫時期だけ店頭で販売されるため、「まぼろしのミカン」として話題になっています。



小ギク



沖縄は日本でも有数のキクの産地ですが、特にうるま市では電照キク栽培が盛んです。開花調整のために、夕方から夜にかけて、電照に浮かびあがるキク畑の光景が、市内各地で見られます。

やまいも(やまんむ)

石川・具志川地域では毎年12月頃になると、各自治会でやまいも一株からとれる総重量を競い合う「やまいも勝負」が行われます。やまいもは沖縄料理やお菓子などに欠かせない食材の一つです。



山城茶

沖縄で唯一残っている在来種の緑茶。香りとのど越しがよく、ビタミンも豊富に含まれています。生産量が少なく、店頭にもあまり出回らないため、幻のお茶ともいわれています。



Local Specialties and Signature Products

Specialties are made by the people of Uruma City with great passion, borrowing from the blessings of abundant water, rich land and the beautiful sea. Signature products are created by the wisdom of the residents in conjunction with the natural features of Uruma City. Both boast of the pride held by the people of Uruma City.



津堅にんじん

国・県拠点産地に認定されているブランドにんじん。カロテン豊富で糖度が高く、甘味があります。産地の津堅島では、海のミネラル分が溶け込んだ畑の土に、海草をすき込んで無農薬栽培しています。



沖縄小雪

黒糖の風味をいかしたまま、特殊製法で微粉末にした黒糖。さわやかで上品な味とほのかな香りは、コーヒーのほか、料理やお菓子づくりにも最適です。

うるまの埋蔵金(黄金芋まんじゅう)

うるま市で取れる黄金芋をふんわりケーキで包んだ、甘さ控えめの饅頭。「ぬちまーす」を入れた餡はコクのある味。饅頭の皮の上にかけてられたはったい粉が懐かしい風味に仕上がっています。第26回全国菓子大博覧会芸術部門で名誉総裁賞を受賞しました。



琉球三線・胡弓

竿材の中でも最高の品質といわれている八重山黒木を使い、この道40年を超える職人が、常に杢材との対話を心がけ、永く愛されるようにと願いながら型を正確に保ち完璧な型へと仕上げている三線や胡弓は、楽器としてだけでなく、工芸品としての美しさが追求されています。

真鯛・沖縄ミーバイ(ヤイトハタ)・スギ

宮城島沖では沖縄ミーバイ、スギ、真鯛が海面養殖されています。沖縄ミーバイは和名「ヤイトハタ」という高級魚。別名「黒カンパチ」と呼ばれているスギは、沖縄の魚の中でも珍しく脂がのり、栄養成分もカンパチとほぼ同じ。真鯛はタンパク質をはじめ栄養分が豊富な魚です。



真鯛



沖縄ミーバイ(ヤイトハタ)



スギ



照間ビーグ

ビーグとは沖縄の方言で畳の材料となるい草のこと。照間のビーグは150年の伝統をもっています。本土産のい草よりも茎が約2倍も太いので吸湿性が高く、蒸し暑い夏もベタベタしません。泥染めをせず、完全無農薬で作られるので環境にも人にも優しい草です。



オクラ

うるま市は2005年、県のオクラ拠点産地に認定されました。オクラはカルシウム、鉄、カロテン、ビタミンCなどを含み、夏バテ解消に最適な夏野菜です。

もずく



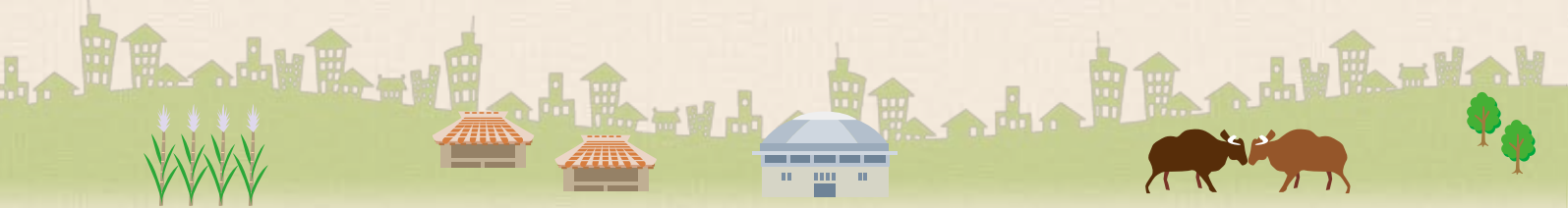
うるま市は全国一のもずくの産地です。サンゴ礁に囲まれた美しい海で育つうるま市のもずくは太くてしっかりした歯ごたえがあり、低カロリーでミネラルや食物繊維が豊富な自然食品です。

黄金イモ

旧与那城町の町長が県外で発見したイモを伊計島に持ちこんで栽培が始まりました。ねっとりとした食感と甘みが人気で、デザートなどの素材としても活用されています。



うるま市の
特産品



Interview /



木に恥ずかしくない仕事を



三線職人 てるや かつたけ 照屋 勝武さん

三線の最も重要な棹の部分は黒檀から切り出しますが、この時、木目に合わせることが大切です。どのように切り出すかは経験で学ぶしかありません。三線の型や音色は、作る道具の質が良くなっているの、昔に比べると確実に洗練されています。しかし、今でも100%自分が納得のいく三線はできません。

平成22年に結成された沖縄県三線制作組合の事業の一つに棹の材料になる黒檀の植林があります。今植えた木が材料として使えるようになるには100年くらいかかります。今は、これまでの蓄えがありますが、なくなったらもう三線は作れません。他の材料を使う方法もありますが、それでは本来の三線ではなくなってしまいます。

誰にも負けないものを作りたいし、これからも木に恥ずかしくない仕事をしていきたいと思います。

もずく生産量日本一のうるま市の新しいご当地グルメ

うるまもずく チャンプルー丼



▲うるまもずくチャンプルー丼にウェルカムドリンク、もずくしゃぶしゃぶ、その他の副菜がセットになった「もずく美味御膳」は、キャッスルハイランダー、海の駅あやはし館の旬鮮レストランでお召し上がりいただけます。

Interview /



キャッスルハイランダー

とうやま よしあき 総料理長 當山 吉明さん なかむら つよし 副支配人 仲村 剛さん

沖縄でもずく料理というと酢の物と天ぷらくらいですが、「うるまもずくチャンプルー丼」はもずくをメイン料理にしたご当地グルメです。特産品を活用した「新・ご当地グルメ」を提唱するじゃらんリサーチセンター・エグゼクティブプロデューサーのヒロ中田さんの指導を受け、地元の料理人たちがアイデアを出し合って試食会を重ね、1年以上かけて2013年に完成しました。初めて食べられる方は、その華やかな見た目とこれまでなかった味に2度驚かれますね。食材は米以外はすべて県産品で、そのうち、もずく、紅芋・黄金芋、塩、もろみ酢、しその葉はうるま市産です。

もずくのまち・うるま市をPRするためにも、多くの人に食べていただきたいですね。



うるま市の推奨品

商 品 名	種 目	製 造
竪琴(うるまの竪琴)	工芸品	てるる詩の木工房(木の工房空陽)
島ネロ	食品	島ネロ研究所
こがねチャンまんじゅう	菓子	黄金茶屋
いその水雲、モズフル	菓子	ケーキのトミーズ
津堅にんじんロール	菓子	レストランB・B・R(パティスリーR)
うるまジェラート	アイスクリーム	株式会社 たみくさ
恋のやまいも・津堅にんじんロールケーキ	菓子	有限会社 プティ・フール
もずくパン	食品	
山いも入りシフォンケーキ	菓子	株式会社 海邦商事
むちむちなこ・アールグレイな紅茶黒糖	黒糖菓子	
沖縄の地釜炊き黒糖・きび太郎	黒糖	
黒糖ココア	調整ココア	
黒糖屋さんの黒糖しょうが湯	しょうが湯	
にんじんゼリー(キャロットゼリー)	食品(ゼリー)	勝連きむたか加工所
もずく佃煮	食品(佃煮)	
もずっこ	食品	手作り加工所 あやかりん
島ぶた黒糖肉みそ	食品(味噌)	株式会社 万鐘
浜比嘉塩	塩	株式会社 高江洲製塩所
グアバ茶	お茶	農業組合法人 グアバ生産組合
イカの塩辛(すみ漬け)	食品(漬物)	津堅みやらび(津堅構改センター)
イカの味付	食品	
のに美人茶	お茶	農業生産法人 有限会社たいよう
のに元気ジュース	食品(清涼飲料)	
うるま茶	お茶	農業組合法人 沖縄県薬草協同組合
春ウコン粒	健康食品	
山城紅茶No.9 2 7 (コク重視)	お茶(紅茶)	農業生産法人 株式会社沖縄紅茶農園
びいぐ織り(コースター、花びん敷、カード入れ、マット、しおり)	工芸品	蘭からふ工房
玄米ホットバックmini	ホットバック	サポートセンターアジュテ
紅型染めハンカチ	工芸品	紅型Lab 邦
キング110m、ジャンプ、オキナワタオルペーパー、コアゴールS、コアゴールW、ローズアロマ、守礼紙銭(打ち紙)、ロイヤル、昭和、花笠	製紙	昭和製紙株式会社
松藤30度古酒	泡盛	崎山酒造廠
松藤限定古酒43度	泡盛	
松藤古酒ブレンド25度	泡盛	
生しぼり沖縄タンカン梅酒	リキュール	
赤の松藤(黒糖酵母仕込み)	泡盛	
琉球もろみ酢黒糖入り無糖タイプ	もろみ酒	
松藤25度、松藤30度	泡盛	
加工嘗みそ(沖縄薬膳味噌)	食品(味噌)	
暖流古酒30度	泡盛	有限会社 神村酒造
うめかおる	清涼飲料水	
暖流25度(闘牛ボトル)	泡盛	
守禮原酒51度	泡盛	
清酒本醸造 黎明	清酒	泰石酒造株式会社
古酒はんたばる25度	泡盛焼酎 焼酎甲乙混和酒	
回転つり針外し	釣具	越来造船
くろがねの小農具 (鎌・鍬・三股スコップ・根切り棒・へら)	農具	竹馬製作所

海中道路

Kaichu-doro Causeway

海の上を龍が這うように伸びる道は4つの島へのゲートウェイ。

The causeway, which extends like a dragon slithering over the sea, is the gateway to four islands.

その先のうるまへ

沖縄本島中部東海岸から太平洋へ突き出した与勝半島。

海中道路の先には平安座島、宮城島、浜比嘉島、伊計島が橋でつながり、
津堅島へは平敷屋港から船が結んでいます。

沖縄の原風景が色濃く残るその先のうるまへ…。



屋慶名海峡

沖縄の瀬戸内海といわれるだけあり、
小島間の海峡は波もなく穏やか。

Yakena Strait

Known as Okinawa's Seto Inland Sea, the Yakena Strait, which winds between small islands, is serene and tranquil.

津堅島

Tsukun Island

Tsukun Island is also known as "carrot island." Carrots are grown in most of the island's fields.

別名キャロットアイランド。
島の畑の大半でニンジンが栽培されている。



浜比嘉島 Hamahiga Island

暮らしも自然も沖縄の原風景が色濃く残る。

The classic image of Okinawa is noticeably evident in both the daily life and nature of Hamahiga Island.

On to Uruma Just Ahead

Yokatsu Peninsula juts out into the Pacific Ocean from the east coast of central region of the Okinawa main island. Bridges join Henza, Miyagi, Hamahiga and Ikei islands, which are accessible at the end of the Kaichu-doro Causeway, and boats departing from Heshikiya Port bring travelers to and from Tsuken Island. Then, it's on to Uruma just ahead where the scenery of classic Okinawa remains strong.



宮城島 Miyagi Island

A narrow waterway runs between Miyagi and neighboring Henza Island.

Ikei Island

The sea beyond Ikei Island continues out to the vast expanse of the Pacific Ocean.

伊計島

その先の海は太平洋の大海原へ続く。



平安座島

Henza Island

Henza Island once flourished as a way-stop for Maran trading ships.

かつてはマーラン船の中継地として栄えた。



「鳴き声以外は全部食べる」と言われるほど深い沖縄と豚の関係。歴史を遡ると、もともと豚がいなかった沖縄に、中国から輸入されたのが14世紀の半ば頃といわれています。琉球王国時代になると、国王直々に豚の飼育を奨励しました。中国人は豚肉をよく食べますが、その中国から盛んに冊封使が来琉したため、ますます豚肉の需要は高まりました。沖縄の養豚はその専門職がいたわけではなく、一般の家庭でも広く行われていました。統計によると、戦前の沖縄では10万頭～11万頭の豚が飼育されていたようです。

一方、明治以降、移民としてハワイに渡ったウチナーンチュの中には養豚業で成功した人もいました。ウチナーンチュの養豚業者は繁殖技術に優れていたのが、その理由だといわれています。

歴史は時に壮大な皮肉を用意します。1941年、日本のハワイ真珠湾攻撃により太平洋戦争が始まると、ハワイでは米軍の増強により豚肉の需要が急増し、ウチナーンチュの養豚業者は大いに潤いました。一方、沖縄では戦争期間中に豚は食べつくされ、あるいは戦禍によってほとんどいなくなってしまうしました。

戦後、故郷の窮状を救うためにハワイのウチナーンチュは「沖縄救済会」を結成し、豚を沖縄へ

豚、海を渡る

送る活動を始めました。沖縄の戦後復興と自立には、養豚の復活が重要と考えたのです。1948年8月、集まった5万ドルの資金で豚が購入され、計画が実行に移されました。米国陸軍が提供した船、ジョン・オーウェン号の甲板に作った豚小屋に550頭の豚を積み、太平洋の荒波を渡ったのは7人のウチナーンチュと米国陸軍の水兵ら23人。7人のウチナーンチュは、船酔いに耐え全身糞まみれになりながら必死に豚の世話をしました。船は24日間を要して与勝半島のホワイトビーチに到着。生き残った536頭の豚が陸揚げされました。海を渡ったその豚は、公平に沖縄全域に配布され、8年後には飼育頭数は戦前を上回る14万頭を突破しました。

この出来事は、2003年、55年の時(とき)を経て「海から豚がやってきた」というミュージカル(市教育委員会企画公演)になりました。ミュージカルは当初1回限りの公演予定でしたが、最終的には11公演、2004年には恩返しの意味をこめてハワイ公演が行われ、多くのハワイのウチナーンチュを喜ばせました。

豚を送り届けた“7勇士”の名は上江洲易男、山城義雄、渡名喜元美、仲間牛吉、島袋真栄、宮里昌平、安慶名良信。彼らの思いは今も、沖縄とハワイのウチナーンチュの絆を固く結んでいるのです。



ジョン・オーウェン号甲板の豚



嵐で破壊された甲板上の豚小屋(屋根)と豚



豚を降ろすところ



トラックに積み込まれる豚



☆甦る
マーラン船

☆うるま市で
見る
聞く
遊ぶ

☆うるま市の
歴史

☆盛岡市と
友好都市提携

うるま リポート

甦るマーラン船

戦前、沖縄の海上輸送の主役として活躍したマーラン船。帆に風をはらんで走る懐かしい姿が、長い歴史の中で培われて受け継がれてきた伝統の造船技術を基に半世紀ぶりにうるま市の海に甦りました。



マーラン船

Reviving Maran Trading Ships

Maran trading ships had a key role in Okinawa's maritime transport before the war. After a half-century absence, the nostalgic image of the Maran trading ship sailing across the sea with its sails full of wind is revived in the sea around Uruma City by using shipbuilding techniques developed and handed down over many years.

2014年7月、帆で風を受けて走る沖縄の伝統的木造船「マーラン船」が、戦後初めてうるま市で復元されました。うるま市与那城平安座の「越来造船」の越来治喜さんと長男の勇喜さんら3人の弟子が、代々継がれている図面を基に、約1年かけて完成させたもので、半世紀ぶりにうるま市の海にマーラン船が姿を現しました。

マーランは中国語で「船」という意味があり、平安座島で定着した呼び名です。沖縄県内では通称「山原船(やんばるせん)」とも呼ばれています。

平安座島は琉球王国時代から交易の拠点として栄えていました。マーラン船は中国から造船技術が伝わり、沖縄で改良された沖縄特有の船で、やんばると与那原間をまきを運んだり、那覇間で生活物資を輸送したり、奄美諸島や喜界島にヤギ、馬、牛などを運んだりするのに使われました。大正時代には100隻以上の船と同数の船頭がいた



といわれています。戦後、輸送方法が海上から陸上交通に転換し、1965年を最後にマーラン船も途絶えました。

越来治喜さんは越来造船の3代目で、市の無形民俗文化財に指定されている唯一の船大工です。復元は、うるま市がマーラン船の造船技術を次世代に継承し沖縄の歴史文化を伝えることを目的に「マーラン等復元活用事業」の一環として2012度からはじまりました。材料のオビスギは越来さんが宮崎県へ出向いて調達したもので、全長約12

メートルの船の外板は1本の木材から切り出しました。厚い外板を簡単な道具だけで一気に曲げる技術は越来造船に代々引き継がれてきた独自の技です。マーラン船は木造船の完成形ともいわれています。その外板が描く美しい曲線には、長年培われてきた伝統の技術の粋が現れています。

復元されたマーラン船は実際に乗ることができます。今後は乗船体験を実施し、小中学校の総合教育などに役立てられる予定です。



Interview /

ごえく なおき
越来 治喜さん

(越来造船代表・うるま市指定無形文化財)

沖縄の誇るべき 造船技術

先代(父)から言われたのは「木をよく見なさい」ということでした。家づくりと船づくりの違いは、家づくりはまず決められたサイズに従って材料を加工しますが、船づくりの場合は材料にあわせて寸法がきまります。木造船は後から継ぎ足しができないので、すでにある木材から過不足なく切り分けなければなりません。

どうやって曲げるのかとよく聞かれますが、同じ一本の木からとった木材でも、部材によって力の入れ方、曲げ方が



変わってくるので、説明するのは難しい。寸法や形は図面に残せますが、木を曲げる技術、船をつくる技術は言葉で表現できるものではありません。実際にやって経験を積み、自分の体で覚えるしかないので。しかし、その技術には物理学、力学にもつながる合理的で機能的な知恵が集約されています。

復元したマーラン船を通して、沖縄の造船技術の素晴らしさを伝えていきたいですね。



うるま市で

見る・聞く・遊ぶ

うるま市で生まれた 芸術・文化・自然



海の文化資料館

Cultural Sea Museum

勝連半島の与那城屋慶名と平安座島を結ぶ海中道路の中間に位置しているうるま市立海の文化資料館にはその名の通り、海の文化がたくさん集められています。ここは、海の文化を紹介した「小さな博物館」です。

うるま市与那城屋平4番地 海の駅あやはし館2階
TEL 098-978-8831

うるま市立石川歴史民俗資料館

Uruma City Ishikawa Museum of History

うるま市石川は沖縄戦当時、最も早く米軍の収容所が設置され、戦後の沖縄の政治・経済・教育・文化・生活の出発点となった地域です。そのような終戦直後の石川市(現うるま市石川)関る小学校、米軍服、HBTの更生衣料、2×4の材木で造った規格住宅、カンカラ三線など貴重な資料を中心に展示しています。



うるま市石川曙二丁目1番55号
TEL 098-965-3866



うるま市民芸術劇場

Uruma City Folk Art Theater

うるま市民芸術劇場は、旧具志川市時代に市制25周年記念事業として建設されました。本格的な音楽ホールとして活用される響ホール、観客と舞台の一体感が得られる燈(あかし)ホールの2つの専門ホールとリハーサル室を備え、多くの人たちに夢と感動を与える地域文化創造型の芸術ホールとして、文化的なまちづくりに貢献しています。

うるま市字仲嶺175番地
TEL 098-973-4400

野鳥の森自然公園

Wild Bird Park

天願川河口の自然豊かな丘の上にある公園。水辺を中心に野鳥10種類余りの野鳥を観察することができます。展望台からはうるま市内のほか、勝連半島、平安座島、宮城島、伊計島などを望めます。



うるま市字宇堅



ビオスの丘

Bios-no-Oka

約10万坪の敷地に亜熱帯の森が広がる自然植物園。広大な園内には、多種多様な植物、亜熱帯ならではのカラフルなチョウや小動物が生息しています。蘭の花をテーマにした植物園、湖水鑑賞舟でまわるジャングルクルーズが人気です。

うるま市石川嘉手苅961番地30
TEL.098-965-3400

沖縄県立石川青少年の家

Okinawa Prefecture Ishikawa Youth Center

昭和50年、石川岳の麓に開設された自然体験・宿泊研修施設。キャンプ、登山、ナイトウォークラリーや星座観察など、さまざまな自然体験ができます。石川岳の登山道の起点にもなっています。



うるま市石川3491番地2
TEL 098-964-3263



うるま市で 見る・聞く・遊ぶ

うるま市の
海と自然に
抱かれ、遊ぶ



石川ビーチ

Ishikawa Beach

石川公園内にあるビーチで、かつては米軍専用のプライベートビーチでした。復帰後は市民の憩いの場として親しまれています。

うるま市石川石崎

宇堅ビーチ

Uken Beach

白い砂浜が美しいビーチ。夏になると市内は勿論、市外からの行楽客が訪れ、マリンスポーツなどで賑わいます。サンサンと輝く太陽の下で戯れたり、潮風を浴びながらバーベキューで一日中のんびりと過ごしたりできます。

うるま市字宇堅644番地3
TEL 098-974-7772



伊計ビーチ

Ikei Beach

干満を気にせずに泳げるビーチ。透明度抜群の海で海水浴はもちろんバナナボートやジェットスキーなども楽しめます。



うるま市与那城伊計405番地
TEL 098-977-8464

トゥマイ浜

Tumai Beach

津堅ビーチとも呼ばれる津堅島の西側にあるビーチ。白い砂浜が約1kmにわたって続いています。ビーチに隣接して民宿やキャンプ場が整備されており、夏場には多くの海水浴客で賑わいます。

うるま市勝連津堅2629番地1



トンナハビーチ

Tonnaha Beach

宮城島にある自然のビーチ。さとうぎ畑を抜けたところに海が広がっています。パーラー、トイレ、シャワーを完備しており、シュノーケリング、ダイビング、バナナボートなどのマリナーレジャーが楽しめます。

うるま市与那城上原8203番地
TEL 098-977-8321

大泊ビーチ

Odomari Beach

伊計島の西側にある天然のビーチ。サラサラの白い砂浜が600mほど続き、透明度も抜群。内海にあるため風や潮流の影響を受けにくく、夏場は海水浴やシュノーケリングが楽しめます。パーラー、トイレ、シャワーも完備。

うるま市与那城伊計1012番地
TEL 098-977-8027



ふるさと海岸

Hama Furusato Seacoast

「ふるさと海岸整備モデル事業」によって整備された浜比嘉島にある人工ビーチ。沖合に防波堤があるため、多少風が強い日でも波はおだやか。

うるま市勝連浜

海中道路

Kaichu-doro Causeway

勝連半島から平安座島を結ぶ全長4.7kmの道路。浜比嘉島、平安座島、宮城島、伊計島へアクセスしています。両サイドには海が広がり、解放感あふれるドライブコースとして人気があります。ウィンドサーフィン・海水浴・カイトボードなどのマリンスポーツが盛んです。

うるま市与那城屋平



うるま市の れきし 歴史



うるま市のあゆみ

人と歴史が奏でる自然豊かな やすらぎと健康のまち

City of Bountiful Nature, Serenity and Health Where Man and History are in Harmony

うるま市は2005年4月1日、具志川市、石川市、勝連町、与那城町の2市2町が合併して誕生した新しいまちで、人口は約12万2千人、面積は86.08平方km。「珊瑚の島」という意味の沖縄の言葉「うるま」から名付けられたうるま市は、コバルトブルーの海に囲まれた島々と美しい橋「あやはし」で結ばれる、「海」・「橋」・「空」が調和した風光明媚なまちとして知られています。そして東洋一の長さを誇る「海中道路」や、世界遺産「勝連城跡」をはじめとする歴史的な遺跡も数多く点在しています。伝統芸能「エイサー」や「獅子舞」等が盛んであり、県随一の「闘牛どころ」としても知られています。

Uruma City is a new municipality formed through the merger of two cities, Gushikawa City and Ishikawa City, and two towns, Katsuren Town and Yonashiro Town. It is the city that has a population of approximately 122,000 people and a land area of 86.08km². Uruma City, which takes its name from the Okinawan word "uruma" meaning "coral island," is known as a city of scenic beauty in harmony with the sky, the ocean and the bridge where the beautiful Ayahashi Bridge joins islands surrounded by cobalt blue sea. Uruma City is dotted with numerous historical sites, including the Kaichu-doro Causeway, which extends the farthest of any in the Orient, and World Heritage Site Katsuren-Jo Site. Traditional performing arts, such as eisa and Lion Dance, are very popular here, and the city is well known for having the best bullfights in Okinawa.

2005年 (平成17年)

- 4月 ●うるま市誕生
- 7月 ●第1回うるま市みほそまつり
- 10月 ●第1回うるま市陸上大会
- 11月 ●田場小学校人文字に挑戦
- 11月 ●県民大会総合優勝
- 12月 ●第1回うるま市駅伝大会



〔うるま市誕生〕

2006年 (平成18年)

- 2月 ●第1回うるま市生涯学習フェスティバル
- 5月 ●世界遺産勝連城跡休憩所オープン
- 6月 ●不法投棄、300人の地域住民・市職員が清掃
- 8月 ●第1回うるま市エイサー祭り開催
- 8月 ●公共施設県内初のESCO事業を開始
- 10月 ●世界のウチナーンチュ大会うるま市出身者歓迎の夕べ
- 10月 ●第1回うるま市祭り開催



〔第1回うるま市祭り開催〕

2007年 (平成19年)

- 1月 ●第1回うるま市伝統芸能祭
- 2月 ●文化の発信地ていーだぬやがま家開所式
- 2月 ●あげなフェスタ
- 2月 ●うるま市民憲章決定
- 3月 ●市立きむたか保育所落成式
- 5月 ●石川多目的ドームが完成
- 8月 ●ALL OKINAWA クリーンアップキャンペーン2007
- 12月 ●第1回うるま市若獅子空手交流大会



〔石川多目的ドームが完成〕

2008年 (平成20年)

- 1月 ●うるま市合併記念式典
- 2月 ●サイエンスフォーラム in うるま & チムドンドン出前科学実験 in 津堅島
- 3月 ●県営かんがい排水事業と勝連地下ダム完成式典
- 3月 ●ぐしかわ看護専門学校校舎落成式
- 4月 ●津堅島ブロードバンド事業開通
- 5月 ●第1回環金武湾ウォーキングフェスタ
- ゆいゆいウォーク開催
- 10月 ●健康福祉センター「うるみん」落成式
- 10月 ●12年に1度の龕屋御願(勝連南風原)
- 11月 ●うるま市子ども議会開催
- 11月 ●石油コンビナート等総合防災訓練



〔うるま市合併記念式典〕

2009年 (平成21年)

- 1月 ●「もずく餃子」共同開発における県庁での発表会見
- 2月～3月 ●第1回うるみん健康・福祉まつり
- 4月 ●具志川ドーム落成式
- 5月 ●うるま市IT事業支援センター落成式
- 5月 ●元三役離任式
- 6月 ●沖縄IT津梁パーク開所式
- 6月 ●島袋俊夫市長が所信表明
副市長に榮野川氏、教育長に謝敷氏が就任
- 10月 ●第1回うるま市ちようちよう祭り



〔具志川ドーム落成式〕

2010年 (平成22年)

- 6月 ●うるま市市民音頭制定
- 7月 ●市制施行5周年記念式典挙行
- 7月 ●マンゴーの拠点産地に認定
- 7月～8月 ●美ら海沖縄高校総体2010開催
相撲の団体競技で中部農林高校が準優勝を飾る
- 8月 ●市地域交流センター落成式



〔市制施行5周年記念式典挙行〕

2011年 (平成23年)

- 2月 ●第1回かっちん南風原まつり
- 2月 ●サウジアラビアからタンカーが入港
- 3月 ●4島7つの小中学校の閉校式
- 4月 ●沖縄アミークスインターナショナル開校
- 5月 ●うるま市観光物産協会開所式
- 7月 ●うるま市消防本部・具志川消防署庁舎落成式典
- 7月 ●うるま市・イオン琉球株式会社「防災活動協力に関する協定書」締結
- 10月 ●うるま市・沖縄工業高等専門学校「連携に関する協定書」締結
- 10月 ●第5回世界のウチナーンチュ大会
世界のうるまんちゅ歓迎会



〔うるま市観光物産協会開所式〕

2012年 (平成24年)

- 3月 ●第1回うるま市景観シンポジウム開催
- 4月 ●彩橋小中学校開校
- 7月 ●岩手県盛岡市と「友好都市提携」を結ぶ
- 8月 ●イチハナリアートプロジェクト
- 11月 ●第1回うるま市緑化祭開催
- 12月 ●人口12万人目に到達
- 12月 ●うるま市出身の東浜巨選手
(福岡ソフトバンクホークス)、
屋宜照悟選手
(北海道日本ハムファイターズ)の入団報告

〔岩手県盛岡市と「友好都市提携」を結ぶ〕

盛岡市友好都市提携



2013年 (平成25年)

- 1月 ●うるま市男女共同参画宣言都市記念式典
- 3月 ●うるま市・(株)サンエー・(株)メイクマン
「災害時における防災活動協力に関する協定」締結式
- 3月 ●ご当地ヒーロー・伝統神ウルマー誕生
- 5月 ●島袋市長2期目就任
- 4月 ●うるま市電話催告センター設立
- 6月 ●救急隊と医師が連携
消防派遣型救急ワークステーション運用開始
- 10月 ●母子家庭の生活を支援「マザーズスクエアうるはし」開所
- 11月 ●統合庁舎建設工事がスタート
- 12月 ●勝連城跡周辺文化観光拠点整備基本計画を策定



〔うるま市庁舎建設安全祈願祭・起工式〕

2014年 (平成26年)

- 3月 ●ご当地グルメ「うるまもずくちゃんぷる一丼」誕生
- 4月 ●彩橋幼稚園が開園
- 6月 ●前原高校サッカー部、沖縄県高等学校総合体育大会
で優勝36年ぶりに頂点へ
- 7月 ●半世紀ぶりに「マーラン船」復元される
- 11月 ●沖縄市・うるま市 災害時における相互応援に関する
協定書調印
- 11月 ●与那城出身バンドHYによる「HY SKY FES」開催
- 11月 ●「現代の名工」に池宮城善郎さんが選出
- 12月 ●きむたか子どもセンター落成式



〔マーラン船進水式〕



サンゴ礁に囲まれた美しいまち、
それが「うるま市」。

沖縄本島の中部に位置し、
緑あふれる町並みと
8つの島々からなる
とても魅力的なまちです。

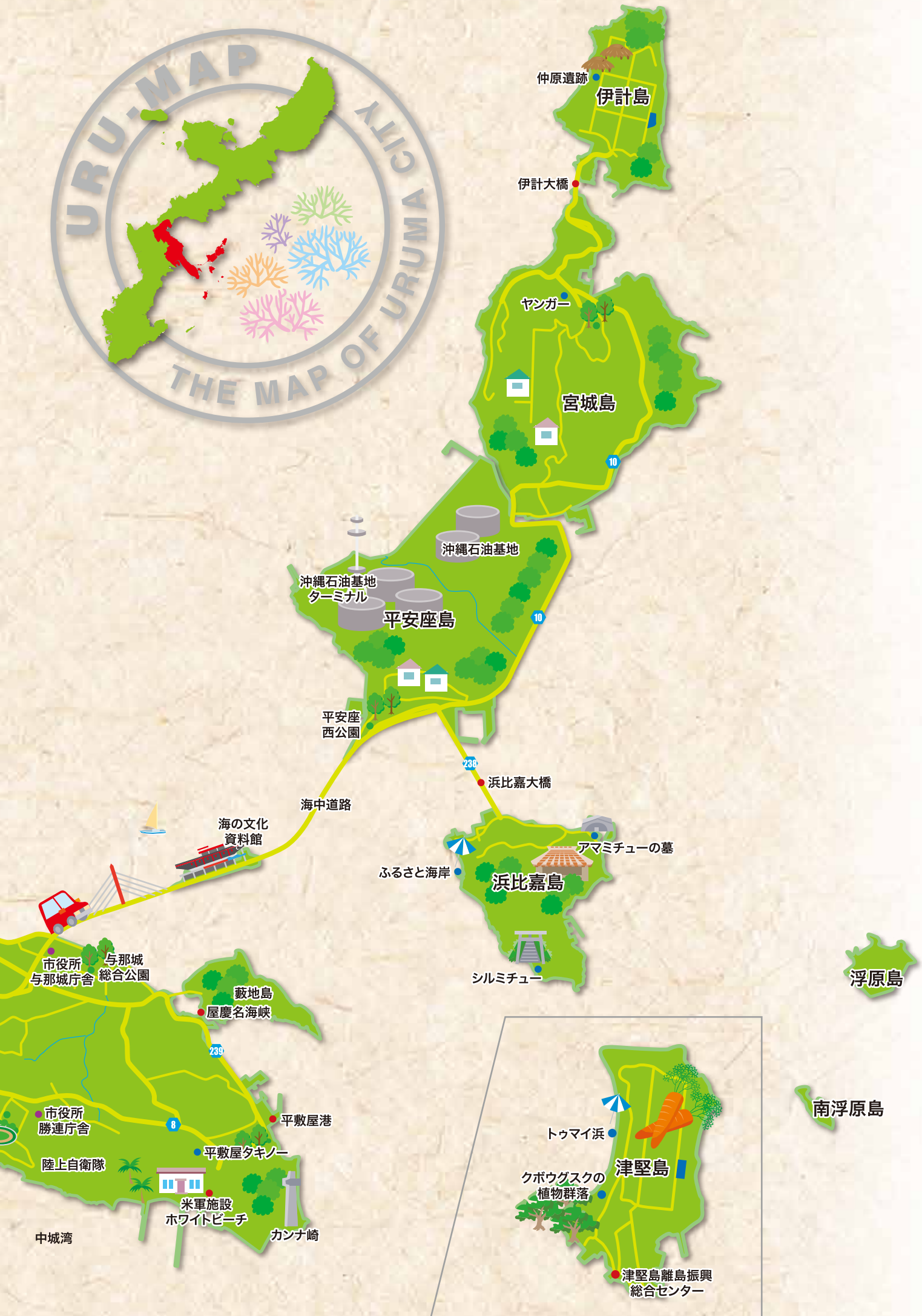
The nature of Uruma City is almost a microcosm of the diverse nature found throughout Okinawa. From Mount Ishikawa covered with natural broad-leaved trees, the Tengan River traversing through almost the middle of Uruma City to flow into Kin Bay, and the “Road through the Sea,” Uruma City also comprises Heshikiya Island, Miyagi Island, Ikei Island, Hamahiga Island, as well as Ukibaru Island and Tsuken Island on the Pacific Ocean.

うるまマップ

URU-MAP

石川岳
県立石川少年自然の家
石川IC
石川炭火力発電所
石川火力発電所
市役所石川庁舎
石川ビーチ
329
75
米軍施設 キャンプ・コートニー
宇堅ビーチ
具志川火力発電所
野鳥の森自然公園
天願川
うるま市役所
安慶名閩牛場
安慶名城跡
米軍施設キャンプ マクトリアス
ジョーミチャー墓
バスターミナル
うるま市消防本部
具志川ドーム
うるま市民芸術劇場
中部病院
球陽製糖工場
津梁橋
中城湾港新港地区
県工業技術センター
勝連城跡
勝連総合グラウンド
ワイトウイ
金武湾
8
224
75
16
33
37
10

勝連総合
グラウンド



うるまの島々



平安座島

勝連半島と海中道路で結ばれた周囲7kmの島。昔、住民は海に生活の糧を求めて暮らし、戦前までは海上交易の中継地として栄えていました。現在でも、サングウチャーのナンザ拝みやハーリーなど、海に関する年中行事を大事に継承しています。



宮城島

平安座島と橋で結ばれている周囲12kmの島。標高121mの高台から平安座島や勝連半島を望むことができます。天然の湧水が多く、昔から作物がよく育つ土地として知られています。



伊計島

宮城島と橋で結ばれた周囲7.5kmの島。珊瑚礁からなり、全体が平坦な島。北側にはリゾート施設やサーキット場があり、葉たばこや黄金イモの栽培が盛んです。



浜比嘉島

平安座島と浜比嘉大橋で結ばれている周囲7kmの島。琉球神話の祖神であるアマミチュー、シルミチューが祀られており、集落には拝所や御嶽が点在。昔ながらの赤瓦屋根の民家が散在しており、沖縄の原風景が残っています。



津堅島

勝連半島の南東約4kmに浮かぶ周囲7kmの島。島の中央から北はほとんどニンジン畑で、別名キャロットアイランドと呼ばれています。うるま市の名産品である津堅にんじんは甘くて県外でも人気があります。



浮原島・南浮原島

勝連半島の東約7kmに浮かぶ無人島。戦前は浜比嘉島の漁夫たちが居住していたこともあります。周囲の美しい海ではモズクの養殖が盛んです。



うるま市盛岡市友好都市調印式

Friendship City

Morioka City



岩手県盛岡市と
友好都市を提携

Friendship City Alliance with Morioka City

盛岡市

うるま市出身の女優・比嘉愛未さんが盛岡市（岩手県）を舞台にした NHK ドラマ「どんと晴れ」に出演したことをきっかけに、盛岡市とうるま市の交流が始まり、平成 24 年 7 月 31 日には友好都市提携を結びました。

Exchanges between Morioka City and Uruma City began with the appearance of Manami Higa, an actress from Uruma City, in the NHK drama "Dondo Hare," which was set in Morioka City, Iwate Prefecture. A Friendship City Alliance between the two cities was concluded on July 31, 2012.

盛岡市はこんな街

岩手県の県庁所在地である盛岡市は、岩手山、姫神山などの山並みと豊かな森に囲まれた自然豊かな街です。市街地には北上川や中津川などの美しい川が流れ、あふれ出る清らかな水に恵まれていることから「杜と水の都」とも呼ばれています。

岩手山の裾野に広がる土地には、旧石器時代から人々が暮らしはじめました。縄文時代にはいくつもの集落が点在し、森や

野原の産物と海からの産物が交わる交易地として賑わうようになりました。

現在では東北新幹線、秋田新幹線、東北縦貫自動車道などが通り、首都圏や東北各地への交通の要衝であり、北東北の拠点として「人々が集まり、人にやさしい、世界に通ずる元気なまち盛岡」をまちづくりの目標として取り組んでいます。さらににぎわいと安らぎのある北東北をリードする拠点として今後の発展が期待されています。



盛岡市の祭り、食、工芸

盛岡の夏のメインイベントとして知られている「盛岡さんさ踊り」は、藩政時代から受け継がれている伝統的な踊りで、毎年8月1日～4日の開催期間に240余りの団体が参加します。

旧暦の5月5日に地域の農民が鬼越蒼前神社に馬の無病息災を祈願したのが起源といわれる「チャグチャグ馬コ」は、百頭を超える馬が滝沢市の鬼越蒼前神社から盛岡市の盛岡八幡宮までの約15kmを鈴の音を響かせながら練り歩く伝統行事です。

食文化では「わんこそば」を筆頭に「盛岡冷麺」「じゃじゃ麺」を合わせた盛岡三大麺のほか「南部せんべい」「日本酒」などがある。「南部鉄器」「紫根染」「南部古代型染め」などの伝統工芸も大切に伝えられています。



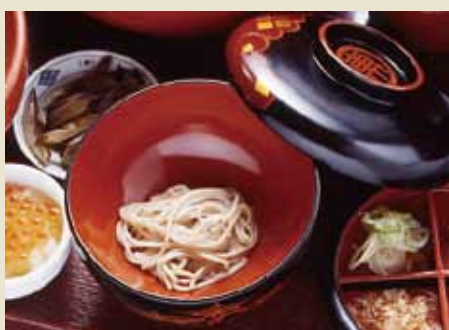
地酒



南部しほり紫根染・茜染



盛岡さんさ踊り



わんこそば



南部鉄器



チャグチャグ馬コ



平成17年4月1日、具志川市・石川市・勝連町・与那城町が合併して「うるま市」が誕生しました。うるま市という名前は、合併の前に全国から募集した5,233件、2,457種類の中から名称検討委員会で12種類まで選考し、最終的に合併協議会で決定されたものです。

「うるま」とは、サンゴの島という意味です。最終候補には「暁市」「若夏市」などもありましたが、海に面した景観を表していることと、ひらがなの親しみやすさが評価され、新しい市の名前に選ばれました。

うるま市は俗に「ウルマ石」とも呼ばれるトラバーチンの産地としても知られています。昭和4年、工学博士の武田吾一氏が国会議事堂の建築資材の調査で沖縄を訪れた際、平敷屋(旧勝連町)のトラバーチンを調べ、資材としての

優秀さを見出しました。その結果、平敷屋のトラバーチンが議事堂の表玄関に使用されることになったのです。ウルマ石の名称はこの時に武田氏によって命名されたものです。

ところで「うるま」という言葉については、日本で平安時代にことばの通じないところ、という意味で使われていたようで、琉球の別称とされるようになったのが室町時代以降といわれています。とはいえ、沖縄にもともと「うるま」という言葉がなかったわけではなく、琉球王府の古語辞典ともいえるべき『混効験

しゅう集』には、日本の和歌の辞書である『呉竹集』から引用して、「うるま」は「琉球」のことだと明記してあります。

「うるま」という言葉については、さまざまな歴史の変遷はありますが、合併から10年を経て、「うるま市」の名称は確実に定着しています。

「うるま」 雑考

うるまの みらい

3つの将来像





うるまの
みらい



うるまの
「ひとつくり」

School Education

学校教育

うるま市では、未来を担う
人づくりとして、学習環境の整備、
充実を図るとともに、
学校、家庭、地域の連携による
教育力の向上、
青少年の健全育成をめざします。

のびのび育て、うるまっ子。





う

るま市には現在、幼稚園21園（公立18園、私立3園）、小学校18校、中学校が10校あり、そのうち2校が小中併置校となっています。本市は都市部とへき地部からなり、大・中・小規模の学校、小中併置校があり、小中併置校である1校はへき地に指定されています。

本市の学校教育は、「自ら学び考える力と確かな学力を培う教育の推進」を目標に掲げ、幼児児童生徒一人ひとりに、学習の基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着等を図ることを目標の中核に捉えて、諸施策を展開しています。また、生きる力の礎とも言ふべき、生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性など、豊かな人間性の育成を目指し、心の教育の充実に努めています。

学校づくりについては、行政、学校、家庭、地域が連携し、幼児児童生徒が安心して過ごせる環境づくり等に努めています。

幼稚園教育については、幼稚園教育要領に基づいて、各幼稚園の実態に即した教育課程を編成するとともに、年間指導

計画の改善・充実により、自主及び自律の精神の芽生えを培う幼稚園教育を推進しています。

これからの学校教育は、行政、学校、家庭、地域が一体となった施策が必要であり、保護者や地域社会との連携や、地域人材の活用など「開かれた学校づくり」にも取り組み、地域から信頼される学校づくりを推進しています。

School Education

Uruma City has 21 kindergartens (18 public and 3 private), 18 elementary schools and 10 junior high schools, two of which are integrated elementary and junior high schools. Encompassing both urban and rural areas, the city has schools that are large, medium and small-sized as well as integrated elementary and junior high schools. One integrated school has been designated in a rural area.

The city's aim of school education is to "promote education that fosters the ability of students to learn and think on their own along with developing sound academic ability." Central to the city's aim is to have each and every child of all ages be sure to acquire the basic and fundamental knowledge and skills for learning, and the city has launched measures to achieve this aim. In addition, our aim is to nurture a rich humanity embodying a respect for life, consideration for others and sociability, which are also

the cornerstone of a zest for life.

Also, Uruma City strives to create an environment in which the municipal government, schools, families and the community join hands to help infants, children and students to live without anxiety, and gives its utmost effort to making schools safe and secure.

Kindergarten education is grounded in the Kindergarten Education Guidelines and the curriculum organized to suit the actual conditions of each kindergarten. Kindergarten education cultivates the seeds of an independent and self-sufficient spirit through the improved and enriched annual instruction plan.

School education needs policies that bring the school, family, community and municipal government together as one. Uruma City works to "create open schools" through cooperation with parents and the community and the utilization of human resources in the community, and it also promotes the creation of schools, which have the trust of the community.



うるまの
みらい

うるまの
「ひとづくり」

Social Education

社会教育

元気なまちは、
学ぶ喜びと、
スポーツの楽しさを、
多くの市民が共有しています。



よく学び、よく楽しむ。

うるま市では、市民一人ひとりが“いつでも、どこでも、だれでも”学べる学習環境を整備し、市民の多様なニーズに応じた生涯学習を支援しています。また、社会教育関係団体の指導・育成に努め、世代を超えて学びあう生涯学習のまちづくりに努めています。

公立公民館を拠点として、各種講座・教室・学級など学習機会の充実を図り、市民自ら学習す

る意欲と能力を培い、心豊かな人間性の伸張・資質の向上に努めています。また、社会体育については、市民が日々健康な生活ができるよう各種スポーツ教室・大会の開催をはじめ、各スポーツ団体の育成やレクリエーション、マリンスポーツ団体の活性化を図り、生涯スポーツ社会の実現と、市民に夢と感動を与える競技スポーツの推進に努めています。



Social Education

Uruma City is developing an environment in which any citizen can learn whenever and wherever he wants, and provides support for lifelong learning to meet the diverse needs of its citizens. Also, the City works to guide and develop social education organizations, and strives to create a place where lifelong learning enables people to transcend generational lines and learn from one another.

Through public community centers, Uruma City seeks to enhance opportunities to learn by offering a variety of courses, workshops and classes. It fosters in its citizens the



desire and ability to study while striving to improve people's talents and embellish their rich humanity. Also, as part of the social education, Uruma City aids a variety of sporting groups and encourages recreation and marine sport(s) groups by holding a variety of competitions and sport lessons so that citizens are able to lead healthy lives every day. The City makes an effort to bring to fruition the idea of a lifelong sporting society and promotes competitive sports, inspiring its citizens and fostering dreams.



Public Health, Medical Care
and Welfare

保健 医療 福祉

市民の積極的な、
健康作りの為に、
ソフト・ハード両面から、
サポートします。

うるまの
みらい



うるまの
「ひとづくり」



かけがえのない財産だから。

本市では、「誰もが健康で、互いに助け合える地域を育てる」ことを基本目標に掲げ、健康福祉センター「うるみん」を拠点に様々な施策を推進し、健康・福祉のまちづくりの実現に向けた取組みを行っています。

全ての市民が安心できる福祉環境の充実に努めるとともに、互いに助け合いながら共に地域の中で暮らしていける社会づくりを進めています。多様な福祉ニーズに対応するため、社会福祉協議会やボランティア団体、民生委員・児童委員等の関係機関と協力して、子育て支援体制や高齢者・障がい者福祉の充実に努めながら、きめ細かい福祉サービスの実施に努めています。

また、市民一人ひとりが自らの

健康づくりに取組みながら、自分の健康は自分で守り、生涯にわたっていきいきとした生活が送れるよう、健康づくりに関する長期計画「健康うるま21」を策定し、乳幼児期から高齢期に至るまで、市民の健康づくりに関する諸施策を展開しています。



Public Health, Medical Care and Welfare

Uruma City's basic goal is to "foster a community where people are able to have a healthy life and help one another." The City promotes a variety of

measures through the Health and Welfare Center "Urumin" to realize a health and welfare municipality.

Uruma City is endeavoring to improve its welfare environment so that all citizens are able to have peace of mind, and is promoting the creation of a society where people can live and enjoy mutual aid and assistance. In order to meet the diverse welfare needs of its residents, the City strives to implement meticulously designed welfare services with the cooperation of the Social Welfare Council, volunteer groups, social and childcare commissioners and other related organizations, while at the same time enriching welfare for people facing disabilities and the elderly, and improving programs offering assistance to those raising children.

In addition, Uruma City has formulated "Health Uruma 21," a long-term health promotion plan, so that each and every citizen is able to safeguard his own health and lead a full and active life, while taking steps to promote his own health. The City has developed a variety of health promotion measures for its citizens from infancy through later life.



うるまの
みらい



うるまの
「ひとづくり」

うるまらしさを、
伝えたい。

Regional Culture

地域文化

地域の文化を
守り伝えていく事が、
市民の誇りや
連帯感を高め、
うるま市の魅力を
創っています。





文

化的財産を保護・継承し、郷土の歴史・文化・自然を見つめなおすことは、市民の誇りや連帯感を高めるとともに本市の魅力づくりにもなります。

本市では、世界遺産のひとつに登録されている勝連城跡を中心に整備事業を推進し、歴史的環境の保全に努めています。

また、地域で守られている文化財の指定、エイサーや獅子舞など市内外へ誇れる民俗芸能・伝統芸能の保存継承に努めています。

本市の文化活動の拠点となる市民芸術劇場・石川会館・きむたかホールは、文化協会をはじめ、各地域の文化活動団体等の舞台芸術の場となっており、文化振興に大きな役割を果たしています。

Regional Culture

Uruma City is working to preserve cultural assets and pass them down to future generations. Taking a fresh look at the local history, culture and nature increases the pride and solidarity of the citizens as well as makes the City appealing.

In Uruma City, projects to improve the Katsuren Castle Ruins, a registered World Heritage Site, and other historical and cultural spots are being promoted. The City is making a strong effort to preserve the historical environment.

Also, Uruma City is working to designate cultural assets for protection in the community as well as maintain and preserve Eisa, lion dancing and other folk and traditional performing arts which are revered outside the city and which the people of Uruma City are proud of.

The Folk Art Theater, Ishikawa Hall, Kimutaka Hall serve as the outlets for cultural activities in Uruma City. These are places where cultural associations and activity groups from each of the district displays their arts and productions. Such auditoriums serve an important role in promoting culture.



都市環境

うるまの
みらい



まちのさまざまな表情が
暮らしにうるおいを
あたえてくれます。

う

るま市は沖縄本島のほぼ中央に位置し、北部圏域、南部圏域を結ぶ地理的・地形的条件に恵まれており、世界遺産である勝連城跡や海中道路などの資源を有することから沖縄観光の拠点的作用を果たしています。

また、沖縄自動車道を利用した市民の生活圏の拡大や市外からの交通の利便性に優れています。

本市は金武湾を囲むように細長い地形となっており、各地域を地形、都市機能、地域資源等で共通要素をもつ7つの地域(北西地域、北部市街地地域、北東海岸地域、中部市街地地域、南部海岸地域、南部市街地地域、島しょ地域)を設定し、将来の地域別のまちづくりを進めています。

今後、沖縄県の中核都市としての役割を担うため、沖縄自動車道や市内外を連絡する国道329号及び県道などの既存道路と連携した道路網の整備を推進し、災害時対策、交通渋滞の解消、買物など日常生活の利便性の向上等を踏まえた生活道路ネットワークの形成を図ります。

Urban Environment

Uruma City is located roughly in the middle of the Okinawa main island and is blessed with favorable topographic and geographic advantages. Connecting the northern and southern areas, it serves a hub function for Okinawa tourism thanks to the World Heritage Site Katsuren Castle Ruins, the "Road through the Sea," and other resources.

Furthermore, Uruma City has very convenient transportation to and from the outskirts of the City and an expansive living area with easy access to the Okinawa Expressway. The City has a long and narrow topography encircling Kin Bay, and is comprised of seven districts (Northwest District, Northern Urban District, Northeast Coastal District, Central Urban District, Southern/South Coastal District, Southern Urban District, and Island District) which were established according to similar terrain, civic functions, community resources and other elements in each



district. City plans for future development are moving forward on a district-by-district basis.

In order to assume the role of Okinawa Prefecture's core city in the years ahead, Uruma City has been promoting development of a network of roads aligning with existing thoroughfares, such as National Road 329 and prefectural roads connecting to areas outside the city as well as the Okinawa Expressway. The municipal government is working to form a community road network that takes into account improvements in convenience for shopping and daily life, the alleviation of traffic congestion, and countermeasures in the case of a disaster.



みどりがあふれ、 潤いのあるまちづくり

うるま市には石川岳等の樹林地や天願川水系等の河川、勝連城跡を代表とする歴史遺産や島しょ地域に残された自然海岸等、多彩で魅力的なみどりが数多く存在しています。これらのみどりは環境保全・自然との触れ合い・郷土景観を形成するうえで大変貴重であり、将来へ引き継いでいくために、その保全に努めています。

また、市民が身近にスポーツやレクリエーションを楽しめる場、潤いのある居住環境や都市景観を形成するため、公園・緑地の整備を推進しています。

Urban Planning with Abundant Greenery and Pleasant Atmosphere

Uruma City has Mount Ishikawa and other woodland areas, the Tengan River water system and other rivers, historical legacies exemplified by the Katsuren Castle Ruins, natural coastlines along on the island

districts, and a multitude of colorful and attractive greenery. This verdure is precious for preserving the environment, communicating with nature, and enjoying the local landscape. Uruma City is striving to preserve this value and to pass it down to future generations.

In addition, Uruma City promotes the development of parks and green zones to shape the city scenery and offer a rich living environment as well as places where residents are able to enjoy sports and recreation nearby.

多彩で美しい景観を生かした 魅力あるまちづくり

美しい海岸線や島しょ地域の自然、勝連城跡を代表とする歴史文化遺産など、本市には多彩で美しい景観が数多くあります。こうした美しい「うるまの景観」は、私たちが先人から受け継いだ貴重な財産として守り、魅力あるまちづくりへ生かしていかなければなりません。良好な景観形成を図るため、景観法に基づく景観計画を策定し、市民、事業者、行政等の協働により、美しい景観づくりを推進していきます。

Attractive City Development to Draw out the Colorful and Beautiful Landscape

Uruma City has a rich assortment of beautiful scenery, including the magnificent nature of the coastline and island districts as well as the historic cultural assets such as the Katsuren Castle Ruins. These kinds of splendid "Uruma Scenery" are the precious treasures we have received from our ancestors and must protect. It is our duty to use them wisely in creating an attractive city. To shape an excellent panorama, Uruma City has formulated a landscape plan based on the Landscape Act and promotes the development of beautiful landscape through a collaboration of the citizens, businesses, municipal government and other groups.



まちの表情を
豊かに。

生活環境

市

民の生命と財産を守るためには、災害に強いまちづくりを進めていくことが大切です。

です。

消防行政については、市民の生命・身体・財産を火災から擁護するとともに、自然災害などを防除し被害を軽減していくため消防施設の整備・拡充を図っています。

また、石油コンビナート地域における自主保安体制の確立および危険物施設の安全対策の充実強化、防火思想及び住宅用火災警報器の普及啓発を図っています。

年々増加する救急業務に対応するため、救急救命士の養成、救急隊員の研修及び各種訓練に努めるとともに、救急効果の向上を図るため地域住民に対する応急手当の講習会を実施しています。交通安全対策については、関係機関や

防災、救急、交通安全、ごみ処理など、うるま市では市民の生活環境向上に関わるさまざまな問題に取り組んでいます。

安心・安全・快適な
暮らしをめざして



Living Environment

To protect the lives and property of the people, it is important for a city to be constructed to sustain disasters.

Through its fire and disaster administration, Uruma City protects the lives, persons and property of its citizens against fires, and works to maintain and improve its fire protection facilities so as to protect against natural disasters and mitigate any damage. Also, Uruma City has established an independent safety system within the petrochemical complex, and has been improving and enhancing safety measures at facilities where hazardous materials are handled. The municipal government disseminates information and educates residents about fire-prevention and the use of home fire alarms.

In order to handle the annual increase of emergency work (annual emergency work increase?), Uruma City is training emergency medical technicians, and providing courses and training in a variety of scenarios to rescue squad teams. First aid classes are also held for community residents to improve the effectiveness of emergency treatment. As for traffic safety measures, Uruma City, in cooperation with relevant organizations and groups, is promoting an awareness of traffic safety and attentiveness to traffic morals.

Also, to protect the natural environment and provide comfortable living environment, Uruma City has established itself as a

leader by augmenting patrols to monitor water pollution and turbidity in river flows receiving household effluent as well as discharge from factories, livestock barns and other such facilities. The City is striving to protect the health of its citizens and maintain their living environment. In order to have a stable supply of safe and delicious water, Uruma City has been strengthening its water monitoring system and striving to systematically upgrade dilapidated facilities and drainage equipment so that it is disaster-resistant. The municipal government is working to extend the public sewer system and improve the rate of access to ensure a comfortable, rich, and prosperous living environment. Uruma City has set about constructing a recycling-oriented society by using a designated trash bag system, and trash is separated by type for pick up in an effort to reduce and recycle trash.



団体と連携して、交通安全思想の普及や交通道德の啓発を推進しています。

また、快適な生活環境や自然環境を守るため、工業や畜舎等の施設及び生活排水などの河川流入による水質汚染濁の監視等、パトロールの強化を図るなど指導体制を確立し、市民の健康保護と生活環境の保全に努めています。上水道については、安全でおいしい水を安定的に供給するため、監視システムを強化するとともに、災害に強い排水施設や老朽化施設等の計画的な整備に努めています。公共下水道については、快適で潤いのある豊かな生活環境を確保するため、普及と接続率の向上に努めています。ごみ処理については、ごみの減量化と再資源化を図るために、ごみ袋の指定制やごみの分別等により、循環型社会の構築に取り組んでいます。



Agriculture

農業 豊かに実る大地の恵み

地域の特性を生かした魅力ある農業の振興をめざします。

うるまの
みらい

うるまの
「まちおこし」

うるま市の農業は、サトウキビをはじめ、花き、野菜、果樹、肉用牛、養豚など多くの作目が生産されています。特にキクや洋ランなどの観葉植物の生産が大きく、県下でも有数の花き生産・出荷地区になっています。

地域の特性に応じた重点的な農業・農村の振興を図るため、農用地機能を高めるためのほ場や農道等の農業生産基盤の整備、後継者や担い手の育成、企業化・法人化等により、農業の推進を図ります。また、地域の特性を生かした特産物の創出や市の名産品・特産品(にんじん、オクラ、小ギク等)のブランド化、及び販路の拡大により、農業全体の活性化と魅力ある農業を展開します。

畜産業についても、ブランド化及び販路の拡大等による活性化を図るとともに、悪臭・水質汚濁等の環境問題への対応や、地域住民の生活環境に配慮した対策を推進するなど、さらなる発展のために施策の展開を図っていきます。

Agriculture

Agriculture in Uruma City yields a multitude of products from sugarcane to flowers, vegetables, fruits, beef cattle, hogs and many other products. There is an especially large crop of chrysanthemums, tropical orchids and other ornamental plants. Within Okinawa prefecture, Uruma City is the foremost location for the production and shipment of flowers.

In order to promote agricultural communities and important agriculture which is in keeping with the distinctive features of the region, Uruma City encourages agriculture through the development of an agricultural production infrastructure, including cultivated fields and agricultural roads to increase the functionality of agricultural land. Assistance is also provided to foster successors and future agricultural leaders. The municipal government works to assist businesses in privatization and to make operations commercially feasible. Uruma City is bolstering all agriculture and developing those types which have particular appeal through their creation of special products taking advantage of the area's characteristics. The City aims to create brands for Uruma specialties as well as signature agricultural products (carrots, okra, small-flowered chrysanthemums, etc.), and expand sales outlets for all products.

Along with brand creation and expanded marketing channels, Uruma City has been advancing policies to further develop the livestock industry, including instituting measures to address environmental issues such as offensive odors, water pollution and turbidity. Policies are promoted which take into account the living environment of community residents.





Fisheries

水産業

豊穡の海に囲まれて

もずくの生産拠点を基調に、資源管理型漁業を推進します。

うるま市の水産業は、県内有数のもずく生産拠点として発展するなど、活性化を見せていますが、漁業経営の安定化を図るため、水産物加工施設及びその他の水産業関連施設の拡充・推進が必要です。もずく等のうるま市を代表する特産品の消費拡大のためのブランド化や地産地消の推進・販路拡大を図り、より安定した漁業経営を促進しています。

海面漁業では、水産経営の安定化を図るため、獲る漁業からつくり育てる漁業への転換や、沿岸漁業との組み合わせなど資源管理型漁業を推進しています。

併せて、水産業を担う人材を確保・育成し、水産業の活性化を推進します。

水産経営を安定化させるための漁港等の基盤整備を推進するとともに、漁場の保全に努めています。

また、漁業者の海に関する知識を活用し、観光・リゾート産業との連携を図り、新たな水産業の振興を促進します。

Fisheries

Fisheries in Uruma City are showing signs of growth as the city has developed one of the few mozuku seaweed production areas in Okinawa. However, further promotion and expansion of marine product processing facilities and other related facilities are necessary to bring stability to fishery operations. Uruma City is facilitating more stable fishery operations by working to expand sales networks and promote local production for local consumption as well as by creating brands to expand consumption of local Uruma specialties, such as mozuku seaweed.

To stabilize sea fishery operations, Uruma City is promoting a shift from catch fishing to cultivation fishing as well as encouraging resource management-type fishing in combination with coastal fisheries.

At the same time, the City is securing and nurturing human resources to take the lead in the future fishery industry. There are also measures for promoting the revitalization of fisheries.

Uruma City is advancing the development of ports and other infrastructure to sustain fishery operations, and is striving to preserve fishing grounds.

Moreover, Uruma City is helping to create new fisheries that apply the advantages of the sea by setting up cooperative ventures with the tourist and resort industries and making good use of fishery operators' knowledge of the sea.





商 Commerce 業 まちに活力

魅力的な商業空間と観光産業を育てます。

活

気あふれる既成市街地の形成を念頭に商業環境の整備を図るため、各種の商業や産業の育成・誘致に努めています。コミュニティ空間やオープンスペース、公共的機能を充実させ、賑わいのある商業空間の創出を図り、魅力ある商業の集積を指導していきます。さらに、経営基盤の強化、近代化、共同化を促進し、後継者や各種団体の育成に努めるとともに、イベント等の開催により、様々な情報を発信していきます。

観光産業は本市において大きな発展が見込まれる重要産業です。世界遺産の勝連城跡をはじめとする歴史・文化遺産、海浜等の数多くの観光資源を活用したオンリーワン産業を目指しています。

Commerce

In order to improve the city's commercial environment with a view toward forming bustling urban districts, Uruma City is striving to foster and attract a variety of businesses and industries. The City provides direction for integrating attractive businesses by creating lively commercial areas and improving community spaces, open areas and public services. Furthermore, Uruma City is strengthening its business foundation, promoting modernization and operational collaboration, and endeavoring to foster business successors and various organizations. The municipal government disseminates a variety of information along with holding events and other such functions.

The tourism industry is important and expected to grow dramatically. Uruma City is aiming for a uniqueness that makes the most of its many resources, including the World Heritage Site Katsuren Castle Ruins as well as a host of historic and cultural heritages, beautiful sandy beaches, and much more.



工業 Industry 地域に夢

情報、健康、環境関連の新しい産業がうまれています。

国際物流拠点産業集積地域に指定されている中城湾港新港地区では、ものづくり産業を集積させるため沖縄県金型技術研究センターや高度技術製造業賃貸工場等の整備が行われ、県内で唯一の製造業が集積し、多くの企業立地及び雇用の創出につながり沖縄県経済の振興に資する地区となっています。

さらに、IT企業の集積を図る沖縄IT津梁パークでは、中核支援施設や企業立地促進センターの設置に続き、平成26年度には企業集積施設3号棟が整備・供用開始し、今後も多くの企業集積と雇用創出が期待されています。

また、雇用促進に向けた取り組みとして、市内小中学校生向けのジョブシャドウイング事業を始めとするキャリア教育の実施、就職に直結した技術習得支援や就業カウンセリング、国と連携したハローワーク端末の設置など就業機会の拡充のための施策を展開しています。

Industry

The Nakagusuku Bay Port New Port Complex, which has been designated an international logistics hub and industrial cluster, is where the Okinawa Mold Technology Institute, high-technology manufacturing lease factories and other such facilities have been developed. It is the only manufacturing cluster in Okinawa. This incentive has prompted many companies to locate there and create jobs, contributing to economic promotion in Okinawa Prefecture.

Furthermore, Okinawa IT Shinryo Park seeks to bring together IT companies. Establishment of the Core Function Support Facility and Corporation Location Promoting Center was followed by construction of Company Accumulation Facility Building No. 3, which was placed into service in 2014. It is hoped that many companies will locate here and even more jobs will be created.

Also, with the objective of promoting employment, measures have been launched to expand employment opportunities, such as implementation of career education including a job-shadowing program for Uruma City elementary and junior high school students, support for skill acquisition directly linked to employment, employment counseling, and the installation of a job-placement office terminal in conjunction with the national government.





行政／議会

Administration & City Council

うるま市はひとつ、
市民協働のまちづくり



市長・副市長



市長
しまぶく としお
島袋 俊夫



副市長
えのかわ せいじ
榮野川 盛治

地

方を取り巻く環境は、中央集権から地方分権へ、さらには地域のことは地域に住む住民が決める「地域主権」に向けた新たなまちづくりが動き出しています。

地域主権にふさわしい行政体制としては自主性及び自立性を高め、自らの判断と責任において効率的かつ計画的な行財政運営を推進し、住民自ら、まちの未来に責任を持ち行政と市民がそれぞれの役割と責任を担い、連携と協力を進めていながら、新しい発想のもとにまちを築きあげるシステムが必要です。

このような観点から「うま市行政改革大綱」に基づき、「ジリツ(自立・自律)した市民と協働でつくりあげる行政」を基本理念に、簡素で効率的な行政を実現するため、新しい視点に立った行政改革に取り組むとともに、「うま市はひとつ・市民協働のまちづくり」をキーワードに市民に開かれた行政を目指していきたいと考えています。

議長・副議長



議長
おおや せいぜん
大屋 政善



副議長
とくた まさのぶ
徳田 政信

市

議会は、市民の代表として選挙によって選ばれた30人の議員で構成され、市の予算や条例などの重要な事項について審議し、市の意思を決定する議決機関です。

市議会は年4回(2月・6月・9月・12月)開かれる定例会と、必要に応じて開かれる臨時会があります。

本会議は一般に公開され、個人でも団体でも傍聴することができます。

議会では、数多い議案等を専門的な立場で効率的に審議を行うために、四常任委員会(企画総務・建設・教育福祉・市民経済)と議会運営委員会、特別委員会を設置しています。議員は、市長から提案される議案だけでなく、市民の要望である請願や陳情などの審議にあたります。

Administration

As for the political environment surrounding the region, a transition is being made from centralized government to handing over administrative power to local governments. Moreover, a new type of city planning is emerging with the aim of "regional autonomy," allowing local matters to be determined by residents of the area.

To be a municipal system capable of handling such a transition, Uruma City is increasing its autonomy and independence, and promoting efficient and systematic administrative and financial administration in its decisions and responsibilities. Uruma City residents themselves need to bear responsibility for the City's future. The municipal government as well as the citizens each need to have their respective roles and responsibilities. As both sides increase collaboration and cooperation, a system is needed so that they are able to build the city up predicated on a new way of thinking.

From this perspective, based on the Uruma City Administrative Reform Guidelines and grounded in the basic philosophy of "being a municipal government that accomplishes work through coordination with independent and proactive citizens," Uruma City is tackling administrative reform from a new point of view so as to realize streamlined and efficient administration. The City is aiming to be a municipality open to the citizens and founded on the idea of "one Uruma City with citizens cooperating in town planning."

City Council

The City Council is comprised of 30 councilors chosen by election to be the citizens' representatives. It is the decision-making body which deliberates the city budget, ordinances, and other important matters, and decides the intent of the City.

The City Council meets four times a year (February, June, September and December) for regular sessions, but may meet in extraordinary sessions when necessary. Sessions are open to the public and any individual or group may attend and observe.

To enable efficient and professional deliberation on numerous measures and issues, the City Council has four standing committees (Planning & General Affairs, Construction, Education & Welfare, and Civil & Economic Affairs) as well as a Council Steering Committee and special committees. The Council not only discusses issues submitted by the mayor, but also appeals and petitions brought to the table by citizens.

うるまの意味

Meaning of "URUMA"

珊瑚の島という意味で、沖縄の美称です。また、景観の見事な沖縄の島々を示す言葉で、海に面した素晴らしい景観を表し、新市が未来へ飛躍することと、美しい沖縄の心を世界に発信する願いが込められています。

市章の意味

Significance of the City Emblem

うるま市の「う」の文字を図案化したもので、赤は太陽、緑は大地、青は海をイメージしています。豊かな自然の輪の中で、市民の融和と平和を表現し、金武湾と中城湾に面して発展する「うるま市」の明るい未来と更なる発展を象徴しています。

平成18年3月1日制定



市民憲章

Citizen's charter

うるま市は、豊かな自然と先人たちの築き上げた文化と伝統を大切にする、希望にみちた健康都市です。私たちは、このまちを愛し、おたがいの幸せを願い、ここに憲章を定めます。

- 一、すこやかで、心のかよう家庭と、思いやりのあるまちをつくります。
- 一、自然を生かし、花とみどりに包まれた、きれいなまちをつくります。
- 一、きまりを守り、ものを大切にする、住みよいまちをつくります。
- 一、働くよろこびと、若い力の育つ、元気なまちをつくります。
- 一、教養を高め、文化のかおり高い、魅力あるまちをつくります。

平成19年3月6日制定



うるま市花・市木等



■うるま市の花「サンダンカ」

アカネ科。花期は周年。沖縄三大名花の一つで、1年に3回花が咲き、花梗が三段に重なっていることからつけられた。花持ちが長く、公園や庭先などに年中咲いている。

花の色は数種あり、中でも鮮やかな紅色は沖縄の青い空に映えて美しい花である。



■うるま市の木「リュウキュウコクタン」

カキノキ科。クロキ(方言名:クルチ)、ヤエマコクタンとも言われ、昔から三線の掉の材料として使われている。民家の庭木や街路樹等として人気のある木である。



■うるま市の花木「ユナ」

アオイ科。開花期は5月から10月。亜熱帯から熱帯にかけて分布し、沖縄では海岸沿いによく生えている。

花は鮮やかな黄色で、昔は樹皮からとれる繊維や葉っぱを利用するなど生活に密着した花木であった。現在でも潮害防止や防風林として活用されている。



■うるま市の蝶「オオゴマダラ」

マダラチョウ科。日本最大の蝶といわれ、大きな羽をゆったり羽ばたかせながら、ふわふわと優雅に飛ぶ。

また、金色に輝く蛹も有名である。

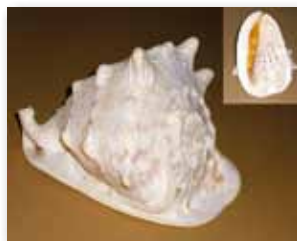


■うるま市の魚「マクブ」

ベラ科。和名は、シロクラベラで成長すると体長が80cmにもなる。

青を主体とした美しい紋様の魚で、沖縄から西部太平洋地域に分布し、自身で美味である。

沖縄を代表する高級魚の一つである。



■うるま市の貝「トウカムリ」

トウカムリガイ科。漢字では「唐冠貝」と書くように、中国の帽子に似ていることから名付けられた。成長すると体長が40cmにもなる大型の巻貝でヒトデ等を食することが知られており、うるま市の海域に生息している。また、昔から市内の聖域にある祠に祀られている。



■うるま市の鳥「チャー」

琉球王朝時代に中国から沖縄にもたらされた鳴き声の美しい鳥である。王朝時代は、土族や王家の愛玩鳥で、戦争で絶滅の危機にあったが、奇跡的に合併前の具志川市(天願)と沖縄市(泡瀬)などで保護されていた。平成3年に沖縄県の指定文化財の指定を受けた貴重な鳥である。



うるま市歌 ～青雲澄みて～

作詞 知念仁照
補作詞 うるま市歌検討委員会
作曲 普久原恒勇

♩=100

あは さき ひ が の ほ る き ん わ ん に
れ き な し る し か ま を し ちゅ ん の ら び し つ ま つ に

せ い き の な み は う ち よ ー せ て
い ち ゆ い の と ぶ き とわ も が ま ー さ え
あ み や は し の て さ ら す こ ほ が ね い ろ ん き む
と も そ お こ と さ ん ゆ こ め り な ち ち っ へ ま い

た か し み ち る こ じ の さ ー と も ち
れ の の か ね は た か な ー み ゐ
あ い う ん て す み て ひ か す り さ す
あ こ こ と と こ こ と か よ ゐ あ く
あ あ ー ー あ ー う る ま し し に
あ あ ー ー あ ー う る ま し し に

み だ ー り ー も ー え
は な が ー が ー さ ー くる

うるま市歌
～青雲澄みて～

一、朝日が昇る
金武湾に

世紀の波は
うち寄せて
あやはし照す
こがね色

肝高満ちる
この里も
青雲澄みて
光さす
ああうるま市に
みどり萌え

二、歴史文化を
偲びつつ

いちゆいの息吹
共に冴え
みほその里も
誇りなん
生まれし街の
自治の道
共に手を取り
進みゆく
ああうるま市に
花が咲く

三、離れし島の
美ら島に

明りをとす
わが街も
共に興さん
理想をもち
平和の鐘は
高鳴りぬ
心と心
通い合う
ああうるま市に
実が栄える

うるま市音頭

作詞 石井昭吉

作曲 神谷幸一

編曲 赤嶺 康

補作詞 うるま市市民音頭検討委員会

♩=100

サアー クルチーだかがやに さんごのうみーに きらめくーみどりの
 サアー なかーぐすくきんわん パノラマなーめり あかーいーあすの
 サアー ひとーもしぜ んも き らひかーり しあわせーさんはる

てりはえーるー マクブモズクに うみーのさちー めぐみゆたかにく
 ゆめのはうーたー ちようもおどい よにあーのやーかて ユウナはんさく
 かつれんーじようー しゃみやたいこに たーのせーて おどるおんどが
 ふるさとーよー おいもわか き も にぎや かに こころひとつに

いっのよもう うるま市よいとこ ちゅらまーちよー くーらんすうれーしーさいの
 そあすをまぶ うるま市よいとこ ちゅらまーちよー うまーれんきだまーしか
 わになっ てるま市よいとこ きらめいて とわにさかーえ

えーがささーく スルティうたらな スルティーうどうらな
 なーおけささーく
 口ーまなささーく
 はーながさーく

イソーサ うりしゃ うるま しおーん ど

うるま市音頭

一. サアー 太陽輝く 珊瑚の海に
 煌めく緑 照り映える
 マクブ モズクに 海の幸
 恵み豊かに いつの世も
 うるま市 良いところ 美らまちよ
 暮らす嬉しさ 笑顔咲く
 ※揃てい 歌らな 揃てい 踊らな
 イソーサ 嬉しや うるま市音頭

二. サアー クルチの風に チャーンが歌う
 明るい明日の 夢の歌
 蝶も踊るよ あでやかに
 ユウナ花咲く 空に舞う
 うるま市 良いところ 煌めいて
 御万人魂 情咲く
 ※(繰り返し)

※(繰り返し)

三. サアー 中城 金武湾 パノラマ眺め
 世界遺産は 勝連城
 三線や太鼓に うたのせて
 踊る音頭が 明日を呼ぶ
 うるま市 良いところ 美らまちよ
 歴史文化の ロマン咲く
 ※(繰り返し)

※(繰り返し)

四. サアー 人も自然も きらきら光り
 幸せ創る ふるさとよ
 老いも若きも 賑やかに
 心一つに 輪になつて
 うるま市 良いところ 煌めいて
 永遠に 栄える 花が咲く
 ※(繰り返し)

※(繰り返し)

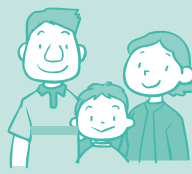
自治会プロフィール

平成27年2月末現在

- 1 具志川(ぐしかわ)
人口4,765人(男2,325人/女2,440人)
世帯数1,789世帯
- 2 田場(たば)
人口5,026人(男2,472人/女2,554人)
世帯数1,840世帯
- 3 赤野(あかの)
人口1,694人(男871人/女823人)
世帯数621世帯
- 4 宇堅(うけん)
人口1,254人(男643人/女611人)
世帯数465世帯
- 5 天願(てんがん)
人口1,406人(男685人/女721人)
世帯数592世帯
- 6 昆布(こんぶ)
人口1,774人(男879人/女895人)
世帯数782世帯
- 7 栄野比(えのび)
人口2,035人(男1,048人/女987人)
世帯数888世帯
- 8 川崎(かわさき)
人口2,168人(男1,105人/女1,063人)
世帯数799世帯
- 9 西原(いりばる)
人口2,687人(男1,355人/女1,332人)
世帯数1,004世帯
- 10 安慶名(あけな)
人口2,991人(男1,430人/女1,561人)
世帯数1,283世帯
- 11 平良川(たいらがわ)
人口2,418人(男1,209人/女1,209人)
世帯数950世帯
- 12 上平良川(かみたいらがわ)
人口2,864人(男1,387人/女1,477人)
世帯数1,088世帯
- 13 兼箇段(かねかだん)
人口1,604人(男819人/女785人)
世帯数615世帯
- 14 米原(よねはら)
人口2,622人(男1,282人/女1,340人)
世帯数941世帯
- 15 赤道(あかみち)
人口4,968人(男2,450人/女2,518人)
世帯数2,145世帯
- 16 江洲(えす)
人口3,797人(男1,876人/女1,921人)
世帯数1,478世帯
- 17 宮里(みやざと)
人口3,423人(男1,716人/女1,707人)
世帯数1,434世帯
- 18 喜仲(きなか)
人口2,938人(男1,457人/女1,481人)
世帯数1,144世帯
- 19 上江洲(うえず)
人口2,467人(男1,227人/女1,240人)
世帯数1,018世帯
- 20 大田(おおた)
人口1,747人(男879人/女868人)
世帯数668世帯
- 21 川田(かわた)
人口908人(男465人/女443人)
世帯数348世帯
- 22 塩屋(しおや)
人口1,606人(男830人/女776人)
世帯数601世帯
- 23 豊原(とよはら)
人口1,225人(男611人/女614人)
世帯数412世帯
- 24 高江洲(たかえす)
人口1,197人(男579人/女618人)
世帯数434世帯
- 25 前原(まえはら)
人口1,362人(男676人/女686人)
世帯数573世帯
- 26 志林川(しりんかわ)
人口2,133人(男1,022人/女1,111人)
世帯数884世帯
- 27 新赤道(しんあかみち)
人口1,959人(男949人/女1,010人)
世帯数721世帯
- 28 みどり町一・二
人口2,194人(男1,053人/女1,141人)
世帯数785世帯
- 29 みどり町三・四
人口2,428人(男1,163人/女1,265人)
世帯数907世帯
- 30 みどり町五・六
人口2,065人(男1,049人/女1,016人)
世帯数880世帯
- 31 曙(あけぼの)
人口2,981人(男1,471人/女1,510人)
世帯数1,297世帯
- 32 南栄(なんえい)
人口817人(男418人/女399人)
世帯数372世帯
- 33 城北(じょうほく)
人口1,926人(男979人/女947人)
世帯数785世帯
- 34 中央(ちゅうおう)
人口1,058人(男529人/女529人)
世帯数453世帯
- 35 松島(まつしま)
人口970人(男487人/女483人)
世帯数454世帯
- 36 宮前(みやまえ)
人口980人(男489人/女491人)
世帯数456世帯
- 37 東山(あがりやま)
人口1,454人(男755人/女699人)
世帯数762世帯
- 38 旭(あさひ)
人口2,488人(男1,195人/女1,293人)
世帯数947世帯
- 39 港(みなと)
人口1,184人(男591人/女593人)
世帯数553世帯
- 40 伊波(いは)
人口2,267人(男1,111人/女1,156人)
世帯数873世帯
- 41 嘉手苅(かてかる)
人口914人(男432人/女482人)
世帯数397世帯
- 42 山城(やましろう)
人口985人(男523人/女462人)
世帯数400世帯
- 43 石川前原(いしかわまえはら)
人口3,398人(男1,658人/女1,740人)
世帯数1,254世帯
- 44 東恩納(ひがしおんな)
人口1,599人(男801人/女798人)
世帯数683世帯
- 45 美原(みはら)
人口785人(男387人/女398人)
世帯数367世帯
- 46 南風原(はえばる)
人口3,664人(男1,825人/女1,839人)
世帯数1,452世帯
- 47 平安名(へんな)
人口4,259人(男2,157人/女2,102人)
世帯数1,585世帯
- 48 内間(うちま)
人口1,117人(男619人/女498人)
世帯数437世帯
- 49 平敷屋(へしきや)
人口3,841人(男2,105人/女1,736人)
世帯数1,487世帯
- 50 津堅(つけん)
人口484人(男277人/女207人)
世帯数258世帯
- 51 浜(はま)
人口297人(男168人/女129人)
世帯数139世帯
- 52 比嘉(ひが)
人口203人(男121人/女82人)
世帯数115世帯
- 53 照間(てるま)
人口1,279人(男670人/女609人)
世帯数470世帯
- 54 与那城西原(よなしろにしはら)
人口1,580人(男747人/女833人)
世帯数592世帯
- 55 与那城(よなしろ)
人口1,603人(男800人/女803人)
世帯数590世帯
- 56 饒辺(のへん)
人口1,365人(男727人/女638人)
世帯数495世帯
- 57 屋慶名(やけな)
人口4,039人(男2,080人/女1,959人)
世帯数1,603世帯
- 58 平安座(へんざ)
人口1,281人(男669人/女612人)
世帯数575世帯
- 59 桃原(とうばる)
人口234人(男129人/女105人)
世帯数119世帯
- 60 上原(うえはら)
人口260人(男155人/女105人)
世帯数136世帯
- 61 宮城(みやぎ)
人口173人(男97人/女76人)
世帯数98世帯
- 62 池味(いけみ)
人口106人(男57人/女49人)
世帯数59世帯
- 63 伊計(いけい)
人口285人(男153人/女132人)
世帯数155世帯

統計から見る 市民の暮らし

Life of Citizens
Looked through
Statistics

人口密度 (平成25年12月末) 1km ² に 1396.5人		世帯数 (平成25年12月末) 1世帯に2.55人 47,564世帯	
転入 (平成25年1月～12月) 1日に12.95人 4,728人		転出 (平成25年1月～12月) 1日に13.09人 4,777人	
出生 (平成25年1月～12月) 1日に3.65人 1,332人		死亡 (平成25年1月～12月) 1日に2.75人 1,004人	
結婚 (平成25年1月～12月) 1日に2.19組 799組		離婚 (平成25年1月～12月) 1日に0.97人 355組	
火災 (平成25年1月～12月) 8日に1件 46件		緊急搬送人数 (平成25年1月～12月) 1日に16人 5,864人	
市職員 (平成25年12月末現在) 市民140人に 1人		市税 (平成25年度) 市民1人あたり 78,863円	
市の予算 (平成25年度) 市民1人あたり 390,025円			

土地
および気象

Land and
Weather

位置・面積・範囲

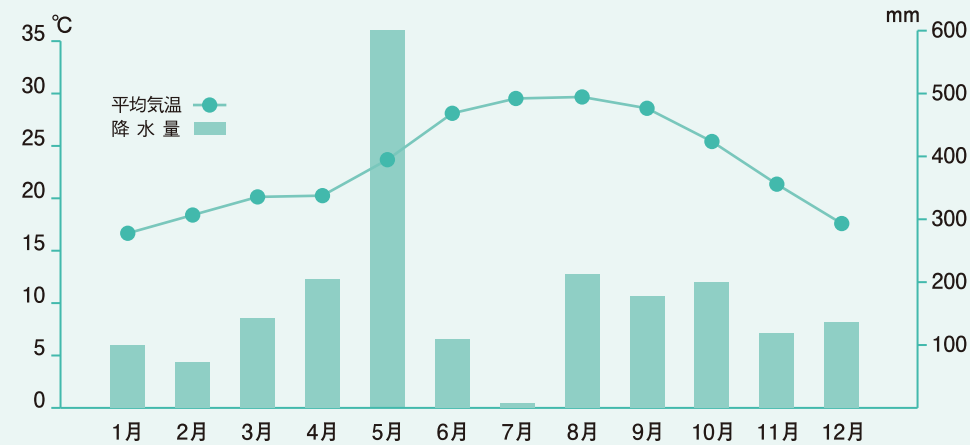
北緯 26° 22′ 45″
東経 127° 51′ 27″
最も高い場所:石川岳204m
最も長い川:天願川
(流域面積 31.61km)
(流路延長 12.20km)
面積 87.01km² (H26.10.1現在)
極東 与那城伊計 東経 128° 00′ 15″
極西 石川嘉手苅 東経 127° 47′ 17″
極南 勝連津堅 北緯 26° 14′ 29″
極北 石川 北緯 26° 27′ 01″

基地面積 (平成25年3月末現在(単位:千㎡、%))

市の面積	施設名	面積					市の面積に占める割合
		国有地	県有地	市有地	民有地	計	
うるま市 86,140	キャンプ・コートニー	65	0	1	1,273	1,339	1.6
	陸軍貯油施設	59	-	190	471	720	0.8
	キャンプ・マクトリアス	30	-	1	348	379	0.4
	嘉手納弾薬庫地区	31	0	1,010	836	1,877	2.2
	天願栈橋	15	-	-	16	31	0.0
	ホワイト・ビーチ地区	217	1	1	1,349	1,568	1.8
	津堅島訓練場	16	-	-	-	16	0.0
	浮原島訓練場	-	-	-	254	254	0.3
	海上自衛隊沖縄基地隊	10	-	0	76	87	0.1
	海上自衛隊沖縄基地隊 具志川送信所	7	-	-	162	169	0.2
	陸上自衛隊勝連高射 教育訓練場	20	-	-	172	192	0.2
計		470	1	1,203	4,957	6,632	7.7

注 1.面積欄が「-」となっているものは、該当数字がないものである。
2.面積欄が「0」となっているものは、表示単位に満たないものである。
3.計数は、四捨五入によっているので符合しないことがある。
資料:沖縄県知事公室基地対策課「沖縄の米軍及び自衛隊基地(統計資料集)」

気象 (平成25年)



気象 (平成25年)

年次	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
気温(℃)	17	18.6	20.4	20.6	23.7	27.9	29.4	29.6	28.3	25.3	21.3	17.3
湿度(%)	66	72	72	74	81	80	73	76	74	72	66	64
降水量(mm)	100	75	140.5	202.5	602.5	105	4.5	212	178	200	121	130

資料:沖縄気象台ホームページ

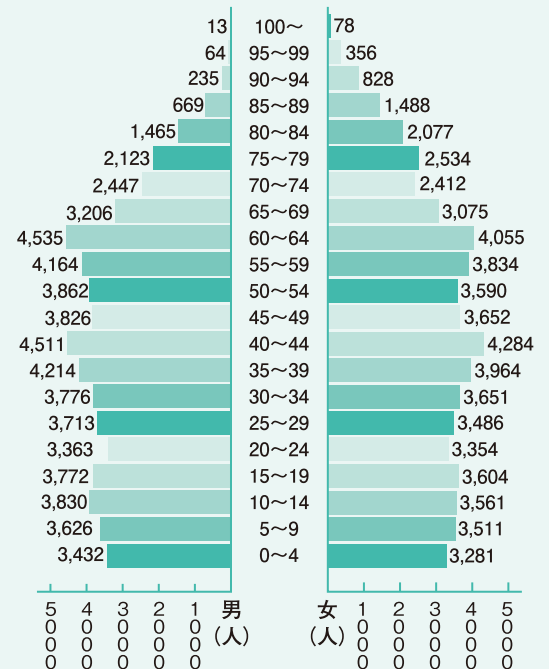
人口

Population

人口ピラミッド[5歳階級別] (平成26年12月末現在 住民基本台帳人口)

単位・人

年齢層	男	女	計
0～4	3,432	3,281	6,713
5～9	3,626	3,511	7,137
10～14	3,830	3,561	7,391
15～19	3,772	3,604	7,376
20～24	3,363	3,354	6,717
25～29	3,713	3,486	7,199
30～34	3,776	3,651	7,427
35～39	4,214	3,964	8,178
40～44	4,511	4,284	8,795
45～49	3,826	3,652	7,478
50～54	3,862	3,590	7,452
55～59	4,164	3,834	7,998
60～64	4,535	4,055	8,590
65～69	3,206	3,075	6,281
70～74	2,447	2,412	4,859
75～79	2,123	2,534	4,657
80～84	1,465	2,077	3,542
85～89	669	1,488	2,157
90～94	235	828	1,063
95～99	64	356	420
100～	13	78	91
計	60,846	60,675	121,521



世帯と人口の推移

各年12月末現在

年次	世帯数 (戸)	総数 (人)	男 (人)	女 (人)
平成17年	40,799	116,347	58,343	58,004
平成18年	41,611	116,828	58,588	58,240
平成19年	42,243	116,839	58,404	58,435
平成20年	42,986	117,185	58,464	58,721
平成21年	43,881	117,976	58,897	59,079
平成22年	44,793	118,953	59,447	59,506
平成23年	45,693	119,567	59,761	59,806
平成24年	46,618	120,558	60,320	60,238
平成25年	47,564	120,955	60,559	60,396
平成26年	48,419	121,521	60,846	60,675

資料 市民課

人口動態

出生	転入	転出	死亡
1,361人	4,870人	4,974人	816人
平成17年(1月～12月)			
1,323人	4,764人	4,838人	768人
平成18年(1月～12月)			
1,359人	4,527人	4,997人	878人
平成19年(1月～12月)			
1,340人	4,724人	4,915人	803人
平成20年(1月～12月)			
1,382人	4,757人	4,477人	871人
平成21年(1月～12月)			
1,409人	4,740人	4,295人	877人
平成22年(1月～12月)			
1,343人	4,801人	4,634人	896人
平成23年(1月～12月)			
1,282人	4,814人	4,899人	956人
平成24年4月～平成25年3月			
1,332人	4,728人	4,777人	1,004人
平成25年(1月～12月)			
1,285人	4,939人	4,713人	1,001人
平成26年(1月～12月)			

資料 市民課

財 政

Finances

一人あたりの予算額
(歳出の内訳)

総務費 58,684円



民生費 181,212円



土木費 36,921円



公債費 38,065円



教育費 58,711円

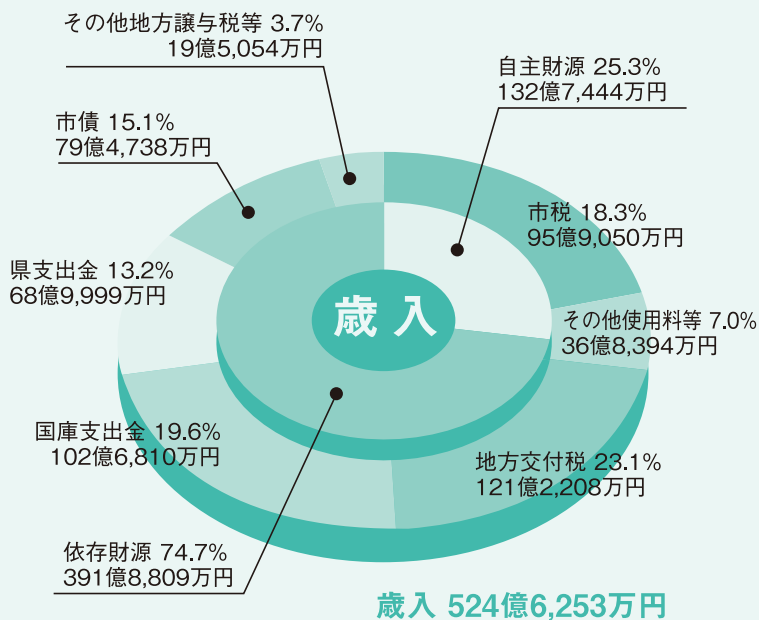


その他 61,110円

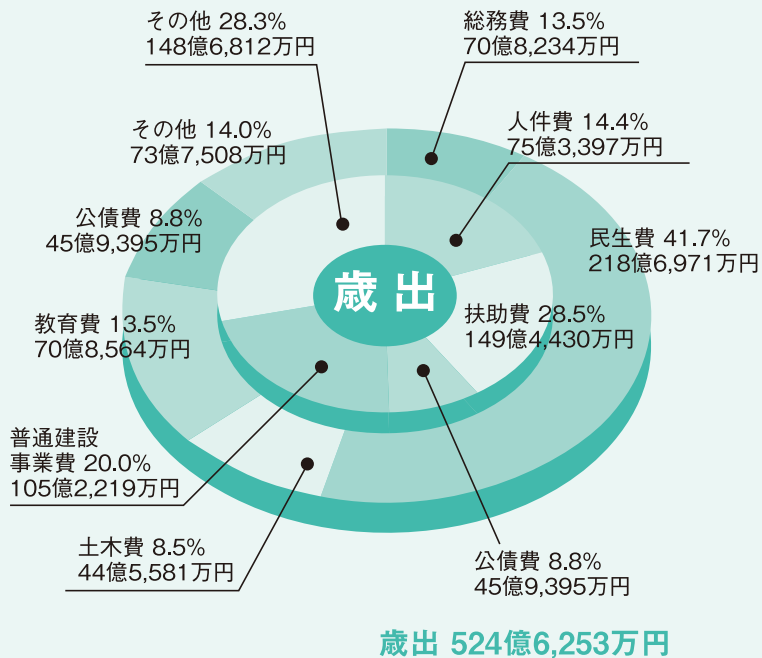


平成26年度一般会計予算
524億6,253万円

歳入予算(平成26年度)



支出予算(平成26年度)



農 業

Agriculture

家畜の飼養農家数と頭羽数

	肉用牛		乳用牛		豚		採卵鶏	
	農家数	頭 数	農家数	頭 数	農家数	頭 数	農家数	頭 数
平成 17 年	202	3,370	1	25	76	30,319	134	26,064
平成 18 年	200	3,515	1	27	68	25,609	93	24,998
平成 19 年	213	4,065	1	29	64	24,791	100	32,377
平成 20 年	229	4,392	1	47	63	28,394	57	34,345
平成 21 年	229	4,611	1	36	61	29,141	58	10,028
平成 22 年	220	4,204	1	36	58	28,035	107	31,560
平成 23 年	203	3,962	1	29	53	26,861	74	31,774
平成 24 年	195	3,894	1	32	52	26,513	68	31,812
平成 25 年	206	3,795	1	32	48	24,492	70	31,391

農家数(戸)、頭羽数(頭)

資料 県農林水産部 家畜・家さん等の飼養状況調査

キク生産状況の推移

	作付面積 (a)	出荷数量 (県外出荷) 千本	出荷額 (県外出荷) 千円
平成 17 年	10,237	40,021(34,386)	1,358,586(1,172,887)
平成 18 年	7,973	34,497(29,971)	1,047,855(923,475)
平成 19 年	6,378	25,756(25,756)	937,065(937,065)
平成 20 年	10,092	40,820(40,820)	1,275,651(1,275,643)
平成 21 年	8,697	42,347(19,423)	1,375,805(665,661)
平成 22 年	8,141	31,536(31,525)	1,047,227(1,046,889)
平成 23 年	9,991	36,348(36,209)	1,137,744(1,133,132)
平成 24 年	10,316	35,639(35,350)	1,120,439(1,091,105)
平成 25 年	10,154	38,311(13,673)	1,109,375(341,883)

資料 うるま市農政課

野菜の作付面積、収穫量

	作付面積 (ha)	収穫量 (t)
平成 17 年	105	2,532
平成 18 年	108	2,603
平成 19 年	102	2,419
平成 20 年	96	1,878
平成 21 年	98	2,296
平成 22 年	91	2,071
平成 23 年	102	1,974
平成 24 年	95	2,029
平成 25 年	99	2,239

資料 沖縄県農林水産部園芸振興課
野菜の作付面積、収穫量及び出荷量

教育・福祉

Education
and
Welfare

○ 幼稚園

施設名	電 話
宮森幼稚園	964-2870
城前幼稚園	964-2871
伊波幼稚園	964-2980
与那城幼稚園	978-3130
南原幼稚園	978-4200
勝連幼稚園	978-4863
平敷屋幼稚園	978-4010
津堅幼稚園	978-2141
川崎幼稚園	972-5239
天願幼稚園	973-5243
あげな幼稚園	972-5242
田場幼稚園	973-5240
具志川幼稚園	973-5241
兼原幼稚園	973-4053
高江洲幼稚園	973-5238
中原幼稚園	973-6280
赤道幼稚園	973-1217

○ 小学校・中学校

施設名	電 話
市立宮森小学校	964-2077
市立城前小学校	964-2086
市立伊波小学校	964-2088
市立南原小学校	978-2225
市立勝連小学校	978-2222
市立平敷屋小学校	978-2223
市立津堅小・中学校	978-2141
市立川崎小学校	972-3367
市立天願小学校	973-3359
市立あげな小学校	972-3566
市立田場小学校	973-3364
市立具志川小学校	973-3536
市立兼原小学校	973-3350
市立高江洲小学校	973-3243
市立中原小学校	973-6810
市立赤道小学校	973-1218
市立彩橋小・中学校	977-8102

○ 中学校

施設名	電 話
市立高江洲中学校	973-3207
市立あげな中学校	972-3276
市立具志川東中学校	973-1212
市立具志川中学校	973-3355
市立伊波中学校	965-3384
市立石川中学校	964-2087
市立与勝中学校	978-2220
市立与勝第二中学校	978-2648
県立与勝緑が丘中学校	978-5230

○ 高等学校

施設名	電 話
県立前原高等学校	973-3249
県立具志川高等学校	973-1213
県立具志川商業高等学校	972-7140
県立中部農林高等学校	973-3578
県立沖縄高等特別支援学校	973-1661
県立石川高等学校	964-2006
県立与勝高等学校	978-5230

○ 公立保育所

施設名	電 話
市立豊原保育所	973-4942
市立安慶名保育所	972-3847
市立石川保育所	964-2229
市立きむたか保育所	978-4209
市立与那城保育所	978-2456

○ 児童館等

施設名	電 話
みどり町児童センター	972-6200
なかきす児童センター	974-1309
宮城児童館	977-7924
屋慶名児童館	978-6082
いしかわ児童館(チャレンジ館)	964-6051
きむたかこどもセンター	978-2066

市内施設

Facilities

	施設名	電 話
本庁舎	うるま市役所(代表番号)	974-3111
関係公会堂	うるま市民芸術劇場	973-4400
	うるま市石川会館	965-5630
	うるま市きむたかホール	978-2219
	うるま市立石川地区公民館	964-3433
中央地区公民館	うるま市立勝連地区公民館	978-7194
	うるま市立与那城地区公民館	978-6836
	うるま市立中央図書館	974-1112
	うるま市立石川図書館	964-5166
図書館及び資料館	うるま市立勝連図書館	978-4321
	うるま市立石川歴史民俗資料館	965-3866
	うるま市立海の文化資料館	978-8831
	うるま市立与那城歴史民俗資料館	978-3149
体育施設関係	うるま市具志川総合体育館	973-0230
	うるま市具志川総合グラウンド	
	うるま市具志川庭球場	
	うるま市具志川喜屋武マープ庭球場	
	うるま市具志川野球場	
	うるま市具志川グラウンドゴルフ場	
	うるま市具志川ゲートボール場	973-5383
	うるま市石川体育館	965-5121
	うるま市石川運動場	
	うるま市石川屋内運動場	
	うるま市石川庭球場	
	うるま市石川野球場	965-3939
	うるま市石川プール	
	うるま市勝連総合グラウンド	978-6040
	うるま市勝連B&G海洋センター・体育館・プール	
	うるま市与那城総合公園陸上競技場	978-1047
	うるま市与那城総合公園多種目球技場	
	うるま市与那城庭球場	
	うるま市健康福祉センター「うるみん」	973-4007
消防署関係	うるま市具志川消防署	975-2001
	うるま市石川消防署	965-0831
	うるま市与勝消防署	978-3283
	平安座出張所	977-8999

	施設名	電 話
公園関係	うるま市安慶名闘牛場	965-5634 (商工観光課)
	うるま市石川多目的ドーム	
	安慶名中央公園(城跡)	965-5620 (都市計画課)
	野鳥の森自然公園	
	うるま市民の森公園	
	浦ヶ浜公園	
	南風原ふれあいパーク	
その他官公署関係	浜漁港緑地公園	
	いちゅい具志川じんぶん館	982-4140
	石川地域活性化センター舞天館	982-5254
	海の駅あやはし館	978-8830
	中部北環境施設組合	972-6619
	うるま警察署	973-0110
	石川警察署	964-4110
	うるま地区交通安全協会	974-3825
	石川地区交通安全協会	964-3410
	具志川郵便局	973-0491
	安慶名郵便局	974-4618
	志林川郵便局	973-4340
	東具志川郵便局	973-5080
	石川郵便局	964-2042
	石川城前郵便局	965-6866
	石川東恩納郵便局	964-2529
	与勝郵便局	978-2533
	勝連郵便局	978-2442
	平安座郵便局	977-8108
	与那城郵便局	978-8425
自治会・公民館(具志川地区)	具志川	973-3407
	田場	973-6069
	赤野	973-9212
	宇堅	973-3558
	天願	972-3573
	昆布	972-3574
	栄野比	972-3551
	川崎	972-3471
	西原	973-3427
	安慶名	972-6052
	平良川	973-6059
	上平良川	973-3493
	兼箇段	973-3552
	米原	973-3431
	赤道	973-3432
	江洲	973-3001
	宮里	973-9013
	喜仲	979-0503
自治会・公民館(勝連地区)	上江洲	973-3502
	大田	973-3555

	施設名	電 話
自治会・公民館(具志川地区)	川田	973-3556
	塩屋	973-1936
	豊原	973-1312
	高江洲	973-3571
	前原	973-4635
	志林川	973-9009
	新赤道	973-6076
	みどり町一二	974-5480
	みどり町三四	974-5839
	みどり町五六	972-5606
自治会・公民館(石川地区)	曙	965-4780
	南栄	964-4263
	城北	964-5022
	中央	964-3630
	松島	964-2325
	宮前	965-1113
	東山	965-4297
	旭	965-4520
	港	965-4964
	伊波	965-1807
自治会・公民館(勝連地区)	嘉手苅	964-4350
	山城	965-4233
	石川前原	965-7021
	東恩納	964-3255
	美原	965-4713
自治会・公民館(与那城地区)	平敷屋	978-2231
	内間	978-2238
	平安名	978-2237
	南風原	978-2235
	浜	977-8450
	比嘉	977-7227
	津堅	978-7510
	照間	978-2233
	与那城西原	978-2236
	与那城	978-2230
自治会・公民館(与那城地区)	饒辺	978-2232
	屋慶名	978-2228
	平安座	977-8127
	桃原	977-8182
	上原	977-8166
	宮城	977-7924
	池味	977-8256
	伊計	977-7373

文化財

The Cultural Assets

国指定文化財

	種 別	名 称	指定年月日
1	史跡	伊波貝塚	昭和47年5月15日
2	史跡	安慶名城跡	昭和47年5月15日
3	史跡	勝連城跡	昭和47年5月15日
4	史跡	仲原遺跡	昭和61年8月16日

国登録文化財

	種 別	名 称	指定年月日
1	登録記念物(遺跡関係)	平敷屋製糖工場跡	平成27年1月26日

県指定文化財

	種 別	名 称	指定年月日
1	有形文化財	三線翁長開鐘	昭和30年5月23日
2	有形文化財	三線真壁型	平成6年3月15日
3	有形文化財	勝連間切南風原村文書	昭和52年7月11日
4	史跡	平安名貝塚	昭和31年10月19日
5	史跡	伊波城跡	昭和36年6月15日
6	天然記念物	チャーン	平成3年1月16日
7	選択文化財	津堅島の唐踊り	昭和53年3月24日

市指定文化財

	種 別	名 称	指定年月日
1	有形民俗	東恩納平良家葬祭具	昭和56年10月15日
2	有形民俗	伊波金細工鍛冶道具	昭和56年10月15日
3	建造物	嘉手苅観音堂	昭和59年6月12日
4	有形・無形民俗	伊波メンサー織	昭和63年11月15日
5	史跡	平敷屋タキノー	平成2年3月26日
6	有形民俗	南風原の村獅子	平成2年3月26日
7	有形民俗	伊波ヌール墓	平成6年3月4日
8	工芸品	三線真壁型(大型)	平成6年3月4日
9	工芸品	三線平仲知念型(大型)	平成6年3月4日
10	工芸品	三線鴨口与那型(中型)	平成6年3月4日
11	有形民俗	地頭代火の神	平成6年3月31日
12	史跡	アマミチューの墓	平成6年3月31日
13	有形民俗	シルミチュー	平成6年3月31日
14	無形民俗	越來文治(マーラン船建造技術)	平成7年6月14日
15	建造物	ヤンガー	平成7年6月14日
16	名勝	犬名河(インナガー)	平成7年6月14日
17	建造物	ガーラ缸	平成7年6月14日
18	有形民俗	宮城御殿(ナークスクウドウン)	平成7年6月14日
19	有形民俗	与佐次川(ユサチガー)	平成7年6月14日
20	史跡	平安座西グスク	平成7年6月14日
21	天然記念物	クボウグスクの植物群落	平成9年4月23日
22	有形民俗	中の御嶽	平成9年4月23日
23	史跡	ヤマトウンチュウ墓	平成9年4月23日
24	史跡	ワイトウイ	平成9年4月23日
25	無形民俗	南風原の獅子舞	平成11年3月10日
26	無形民俗	平安名のウムイ・キューナ	平成11年3月10日
27	無形民俗	平敷屋エイサー	平成11年3月10日
28	無形民俗	天願獅子舞	平成11年7月15日
29	無形民俗	田場ティンバー	平成11年7月15日
30	建造物	吉本家	平成12年11月7日
31	史跡	新川・クボウグスク周辺の陣地壕群	平成16年3月3日
32	史跡	兼箇段ジョーミーチャー墓	平成17年2月16日
33	史跡	田場ガー	平成17年2月16日
34	史跡	大田坂	平成17年2月16日
35	史跡	沖縄諮詢会堂跡	平成17年3月1日
36	史跡	東恩納博物館跡	平成17年3月1日
37	史跡	石川部落事務所	平成17年3月1日
38	無形民俗	越來治喜(マーラン船の建造技術)	平成17年3月4日
39	無形民俗	宮城ウンデーク	平成17年3月4日

うるま市 市勢要覧2015

平成27年3月発行

発 行／沖縄県うるま市

編 集／うるま市企画部秘書広報課

〒904-2292 沖縄県うるま市みどり町一丁目1番1号

TEL.098-973-5079 FAX.098-975-1111

制作協力・印刷／丸正印刷株式会社

